

遺拾
都名所圖會
四

前朱萑

拾遺

庫文閣内		
七 函	八 七 一 冊	和 書 類
二 架	三 號	

和書門		
一 冊	二 架	八 七 三 號
	九 函	

全五冊

内閣文庫	
番號	和 8873
冊數	11 (11)
函號	172 178

油
惠
教
院



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり
糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

拾遺都名所圖會卷之四

前朱雀目録

元書院

制度取調

赤井原
達磨堂
上津彦牛頭天王
龍宮寺

城南神社
目堂
御所内

竹田里
國分寺
下名那田中天王

戀塚
成菩提院
近衛院
九品寺

鴨川曝
赤井原
達磨堂
上津彦牛頭天王
龍宮寺

新萱堂
名那比代
竹田街道
西乃寺
石茶師
久我神社
樋川波口
水壘
川口天神
御牧八幡宮
天武帝社
開元寺

茶師堂
常念寺
勝光明院
竹田里
龜井茶師
御所屋簾
愛宕祠
八幡山
内里王塚
御園原
伏見白王居
立賣

常盤井
 住吉社
 觀音寺
 大黒寺 大神社
 森住吉
 念故寺
 有馬稻荷
 種蓮庵
 漆野里團店
 嘉祥寺聖天
 眞宗院
 善福寺
 霧谷
 伏見陵
 東本願寺懸所
 大光明寺 茶師堂
 西方寺
 明壽院
 後本町大満宮
 玄蕃町神明
 了峯寺
 道澄寺
 仁明帝陵
 霞谷
 猿丸大夫墳
 桓武天皇陵
 海寶寺 大満宮
 拓月
 波懸西岸寺
 本教寺
 聖恩寺
 光照寺
 白菊井
 正覺寺
 西岸寺
 常安寺
 安樂院御廟
 履 白鼻
 鎮守松
 車塚
 西福寺
 中書嶋辨天社
 源空寺
 金札宮
 西本願寺懸所
 寶國寺 觀音堂
 蛭子社 茶師院
 墨生漆椽
 西休寺
 石崎寺五百羅漢
 法華堂
 貞觀寺
 女御貞子墓
 栢原野
 希成就院

隆閑寺
 大王山
 田中社
 金岡宅
 普化墓
 頓阿庵
 平等院 補遺
 宇治田原
 眞言院
 栗林
 巨掠神社
 根本八幡 武内祠 放生所 淨安寺 三福寺
 久世神社
 富野大神
 八科峠
 金ヶ辻
 願初寺
 本幡川
 浮舟宮
 免道里 宇治橋
 法皇堂
 大津堂
 禪定寺 猿丸太夫社
 鷲嶋山行場
 候勢田神社
 三田坂
 水主社
 本幡閑守屋鋪
 淨妙寺
 淡茶師
 五箇庄
 玉碯石
 朝日山
 釣月
 八幡宮
 龍安寺
 白川 白山権現 金色江
 栗隈大神
 興聖塔婆
 警坂 小徳峯
 白釋迦
 等泉寺
 本幡神社
 不焼地藏
 黄檗山 補遺
 三室戸山
 喜撰嶽
 栗子山 神明宮
 三宮
 善福寺
 巨掠堤
 七ツ墳
 指月塚
 長沈乃 十六夜
 推尾山 同勝



市野辺梵天
 井出山風穴 下馬石 有王サエ
 神童子然
 普賢寺溪
 下狗若王子
 土師
 松野寺
 上狗里 御霊社
 泉橋寺
 瓶原離宮 清見河系
 岡田山
 笠置山名石細圖
 稲電

玉水井 巖間山名石 井出寺
 藪 神南依山
 薪 茶師堂
 段々良都谷 白権現
 藏園山大神
 相樂
 動觀音 荒神石
 椿井寺辨天
 西村 中興社 國行
 加茂社
 加茂社
 笠置山名石細圖

井堤丸名石
 光明山寺跡
 大神森
 草内
 稻八間武内祠
 本津川 椿井寺
 本津 布坂春日社 念佛石 あげせ椿
 鯉魚石
 井平尾菜切石
 法善寺野
 東明寺
 陶山小里山夜討道

玉川水車
 鳥居里
 興谷酒屋祠 郡塚
 飯岡
 祝園春日社 大塚
 大智寺
 椿井里 松尾社
 加勢山不動
 浄瑠璃寺 郭公 欲所
 栗柄大満宮
 兒瀧

上鳥羽
 城南神社
 厚さ
 乃
 田面
 寒の雨
 七世



禁裏の洞進
 旅の市百歩
 魚の具
 肥
 行
 乃
 福



鳥羽
 化り道



鳥羽

鳥羽上洛外... 鳥羽の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

徒然草曰

鳥羽の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

新築

雲井花のり... 鳥羽の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

荊萱堂

荊萱堂... 荊萱の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

野山... 荊萱の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

高野山... 荊萱の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

出... 荊萱の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

大日堂... 荊萱の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

藥師堂... 荊萱の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

戀塚... 荊萱の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

鳥羽... 荊萱の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

不孝... 荊萱の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

設酒... 荊萱の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

去黎... 荊萱の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

高節... 荊萱の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

秦之... 荊萱の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

願主... 荊萱の地は南七町ありて上洛の途に在りて二村あり

瓜の名産へふ城の柏里と
 泳ぐれど今もけり多珠小化
 ころ甜瓜其味ありく化
 境小勝もて祭法小と
 影く杖の紀ふを用り
 とあ人又南史又
 いつく勝量とらふ
 その五歳の時毎
 熱病を患て寒の
 中心瓜と食甘ん
 幸故母の勝量
 四方と歴訪とんと
 も優り幸旅つん
 時ふいふ乃新化
 出て我小復九あり
 と七つと分て相
 遺つ人よまよた足
 て寒瓜おろくとふ



驚異と足至者
 の天小通ととや
 以て厚れ

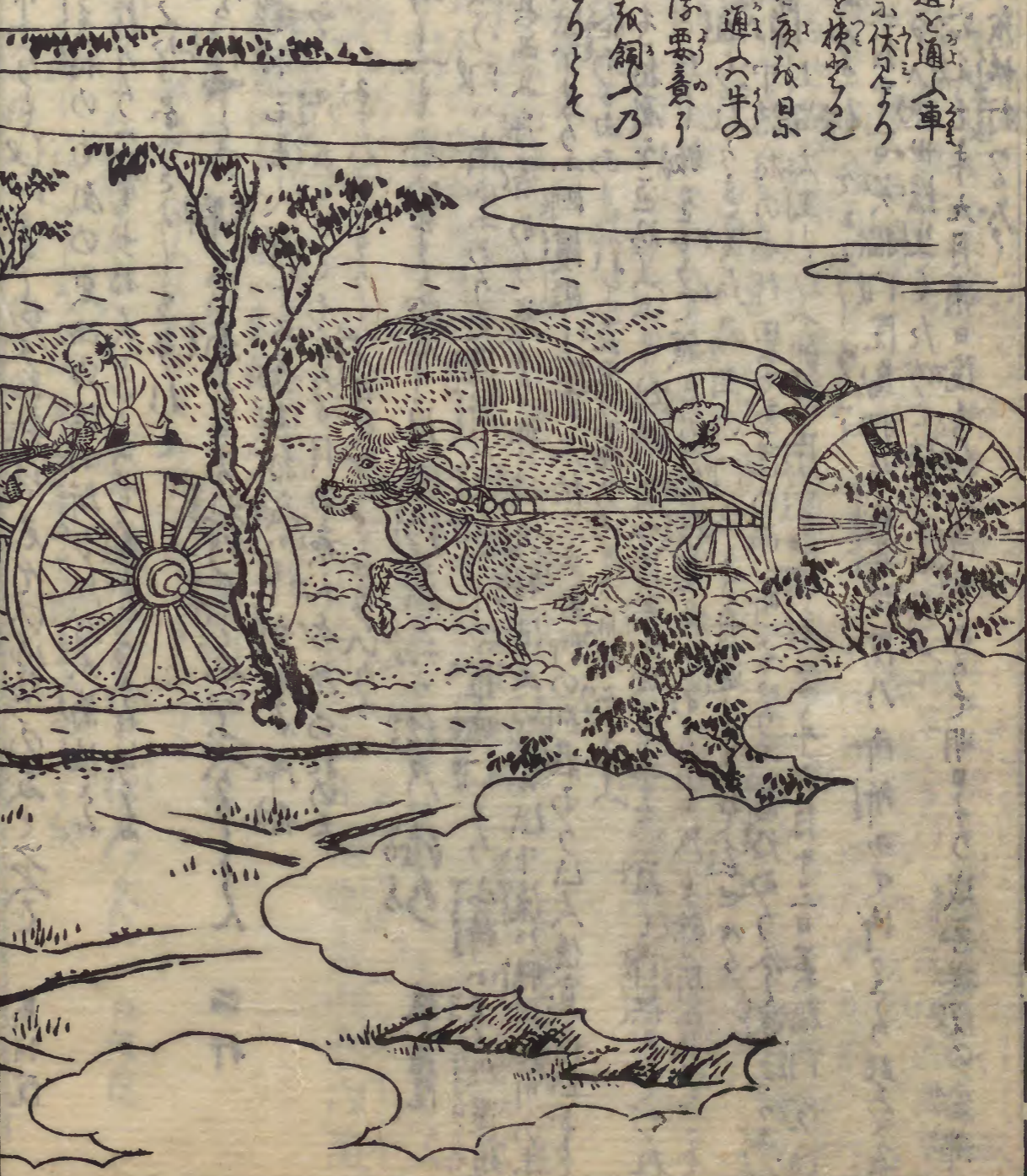
初ろ
 志業瓜
 登りや
 猫の
 芝



皆の
 軽の
 上
 風野
 衆雲



竹田街道と通車
 牛の日毎に伏せり
 都へ貨物を積むる
 安者も夜に日
 づいて牽通る牛の
 疲れどは要意
 まく牛を飼へ乃
 あらへたりとて



勝光明院 古記小曰多勝ふなりと今日北洋あり次 延喜釋書曰保延二年三月
二十三日多勝の勝光明院と慶と導師の忠尋 聖願の覺狀 其日
帝 上皇六宮百司の集令を預ると云々
古今著聞集曰

久善元年二月十五日法皇美福門院清同轉に鳥羽乃車駕あり
勝光明院へ許幸して意の橋を許さるなり 慈阿孫院遷と遷せし事
竹田 勝ののちり小あり洛陽東院由小洛等のありあり伏見往來乃
真幡守の辻とあり又日院民の外に龜若の止とあり一竹田山王宮乃
社司龜若氏の宅地ありと云
續千載

玉葉 少後と竹田の系不啼と云のすかく時なり我と云と云
堀山首 竹田の里小ありして後夜水結と云と云 後禎
近衛院 陵 山向不勢院の跡の西側小あり前編小見へと云美福門院と曰陵あり
編年集曰久善二年七月廿二日近衛の皇居小崩しの人許年十七
八月一日船岡山の野小葬り御骨知足院小安置と云と云
御練抄曰長寛元年十一月廿八日近衛院の御骨知足院の東殿美福門院の
御塔小波し奉侍と云と云
享保三年 大樹吉宗公 御治世の初元歴代帝陵の所改わり具記小曰山城國紀
伊郡竹田村仁和寺許鎮の白畑中ふあり
美福門院の旧地と云と云

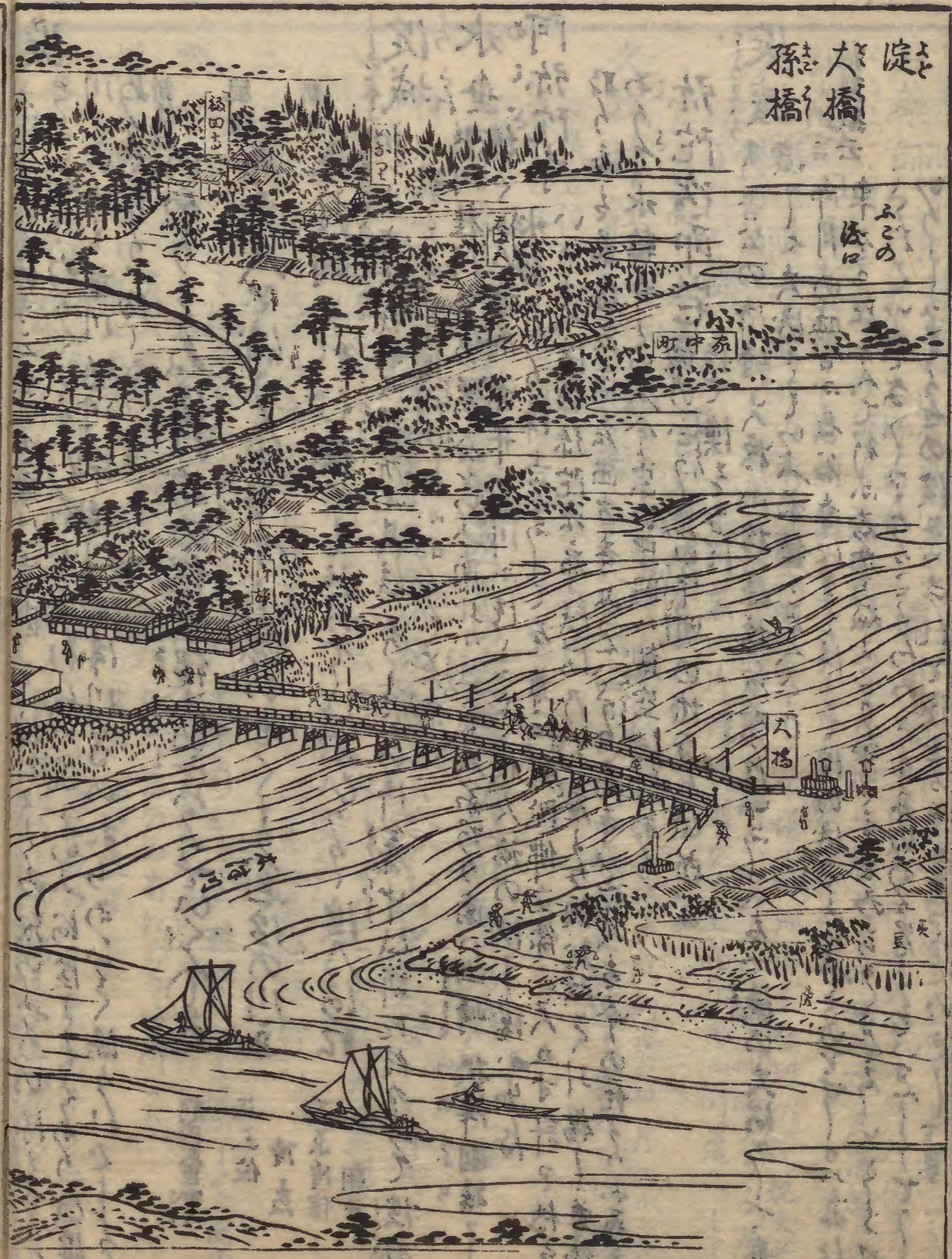
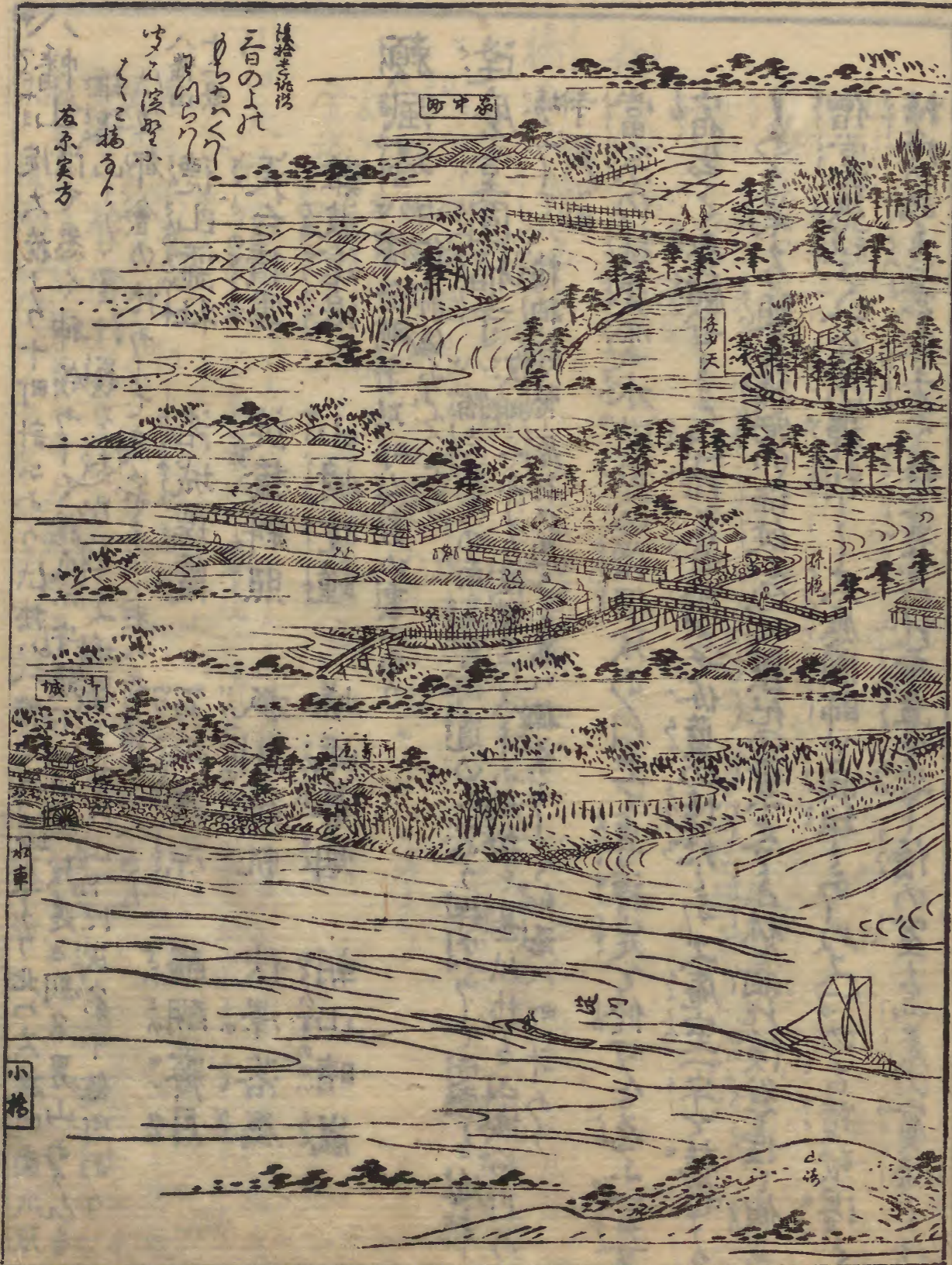
西行寺 不動院の小あり多勝院少面佐友を清憲清は所小別館を賜と云鳥
乃山院へ肥進と保元元年七月二日 為羽院為清の後と云と云

藤原 藤原の法師と号し利登塔ありの寺と云と云本尊阿彌陀佛乃坐
係安重と云又云乃上人曰侶延任土人の由係共且厨子不安に又乃上人乃
念持仏地を安重と安重と定朝の化ありて立係一尺八寸火災除滅の應驗ありと云
火消地後と云と云今許土宗の傳と云
扶桑略記曰

公家近來九條の南多勝の公庄新小後院被建九方百餘町被下と云近習の卿相
侍長地下頼人等給家地を賜て舎屋被營造院都進のまくと云と云乃
廣と南小八町東西六町水の深サ八尺凡流の美勝計と云と云
山王大宮 安樂寺院のむと云と云氏居の小 十禪師社 大宮の東にありにあり支社共
菽の中ふあり 保延年中 鳥羽上皇城有難宮に

國分寺 竹田山王推現親向の地と云又云分寺の阿彌陀佛八雲日の化ありと云と云三條三之八
はけあり又南小相樂郡小國分寺の舊あり後世は所へ國分寺と云と云
又其頃光明寺名の許換ありて國毎又國分寺危寺被建て如傳被傳と云と云
其日記るなりと云と云分明と云と云

九品寺 日村國分寺の南ふありと云と云伽藍開基記曰古者本朝才七十四主 乃有は
張安重と云と云安重九品被表と云と云號て九品寺といふ年代久遠なりと云と云
廢壞し唯は寺ありと云と云



八幡山 從大橋より十町計ありは地ハ八幡宮清遷坐より北ハ大橋の南爪取

雄徳山 限て悉く神領ありて橋爪の守護不入の標旗建る別名男山あり

八幡山 十二景 德山靈社 洛城瑞霞 石水清涼 醍醐霽月

天台積雪 淀橋斜照 孤川征帆 伏澤落鴈

難波滄浪 山崎曉鐘 嵯峨暮烟 朝山晴嵐

賴風塔 由綴前縁ふりくあり

達磨堂圓福寺 幡志水町の南高野街道の右あり禪宗ありて遺蹟を遺教

當宗の徒才雲水遊歴の僧侶張ありて専禪定と修せん為ふ一尊

宿舎と發願せしむけ地と寄附して依壁の傍にあり又廬室一宇と施與する

僧堂施設一宇の禪刹と大應國師と因祖とあり又二ツの古蹟取得と

達磨大師像 境内の東坐禪堂不安至る所は像ハ大和國片岡ハ達磨寺ハ

長 松達磨堂の西橋葉道の傍あり枝葉四が小繁茂して笠の如く蓋覆

橋本 八幡山の南あり大坂街道の驛ありて人家の地十二町あり茶店橋本

金河 橋本の南あり南橋ありあり源云りの溪あり

金橋 右の川に架と橋は橋本橋

川口天神宮 男山のより十町くり川口村民家の東あり系神天満宮

殿を造り後冠園院乃清宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

夜も又あはれに下りて聖日陰陽師ハ余トて戀人ハ夫りのつら

を造り人軍神清浦の神竹華の赤く天聽ハ達磨の宮

殿を造り後冠園院乃清宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

夜も又あはれに下りて聖日陰陽師ハ余トて戀人ハ夫りのつら

を造り人軍神清浦の神竹華の赤く天聽ハ達磨の宮

殿を造り後冠園院乃清宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

夜も又あはれに下りて聖日陰陽師ハ余トて戀人ハ夫りのつら

を造り人軍神清浦の神竹華の赤く天聽ハ達磨の宮

殿を造り後冠園院乃清宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

夜も又あはれに下りて聖日陰陽師ハ余トて戀人ハ夫りのつら

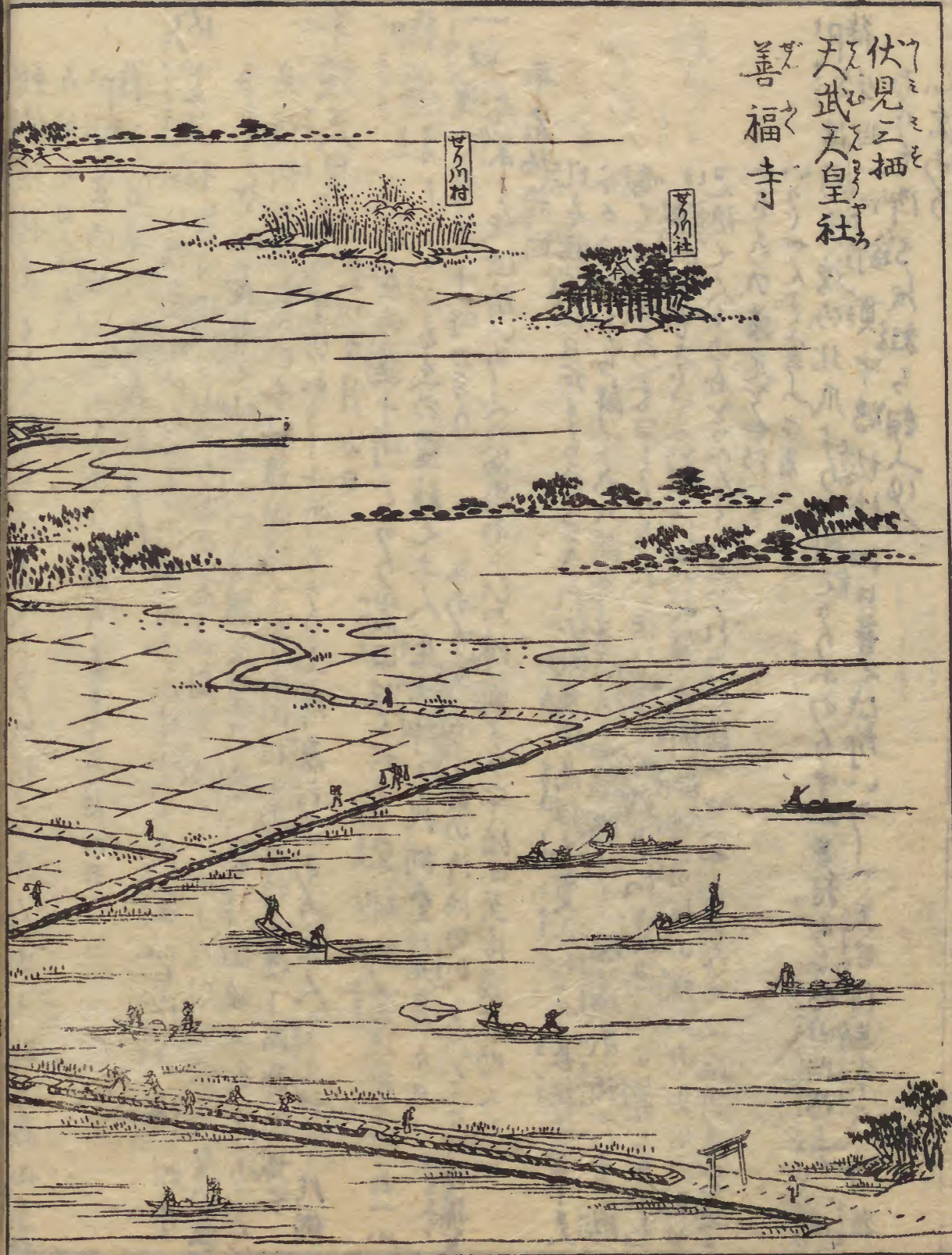
を造り人軍神清浦の神竹華の赤く天聽ハ達磨の宮

殿を造り後冠園院乃清宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

幣原
圓福寺



伏見三抽
天武天皇社
善福寺



竹田

新橋
まぐれ
ちよのお道
ふとこけて
くれせり
わらわらん

家茂



御牧八幡宮

御牧村あり系神五座八幡神功皇后

若宮 武元天皇 春日

玉田森

日所の森

御園原

足より南の方諸村に葦原の葦原今不於て多し

淀堤

秀吉公の時時化る

醫王山善福寺

上三極あり東光院と号し初ハ初基菩薩乃開基也

天武天皇社

下三極あり系神天武帝は地小津鎮坐の奉祀詳あり

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

伏見

美濃より約二里日津紀又を俯見と云り本香小を其竹の正一里

新あらたのこゝろふ
 去年こぞのとと飯いひ
 うさく
 槐あけぼのの花はな
 名頁



伏見ふし見より大亀谷おほかめや飯いひ
 経つとて大津おほつへの河が不ふ
 道みちへの秀ひで吉よしのの伏見ふし見
 津つ立た城しろのの村むらよりの用もち
 初はつ之の今いまもも同どうのの
 列れつ侯こう吾妻ごまへの糸いと靴くつ
 一ひとのの村むらを
 し道みちと通とほる
 東海とうかいへ
 徳とくさの人ひと



伏見城の龍雲寺の
 やと方十町と云ふ
 殿千株の樹花あり
 孫のひの紅粧のま
 旅のうり宇治見と
 より眺一はふ
 して宇治川をさる
 柴舟小舎入江の水
 物多おけ田のり人
 従の城八幡の塔の
 翠密まても眼ふ
 ありて驛人乃心
 坂あしる

宇治見山

龍雲寺



叱咤時移霸業空
 百年葵麥動春風
 金湯變作桃花塢
 遠近霞照千里紅

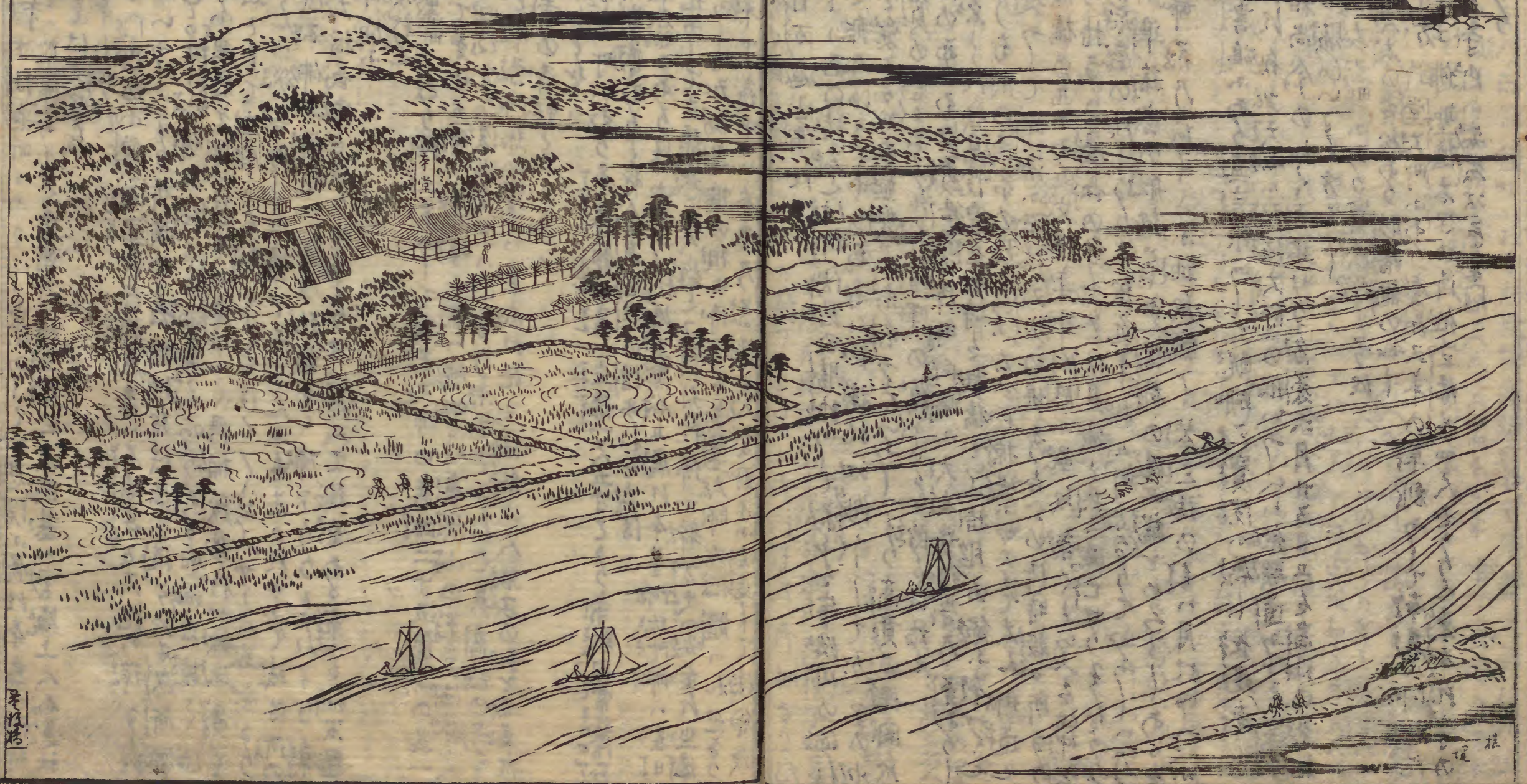
東涯先生



霜露天涯墜
 苦來侵鬢毛
 坐驚年序早
 獨對月明高
 孤館冷殘酒
 故人寒贈袍
 鴻書過未達
 尚向客中勞

南郭

指月山
 月橋寺



吳江

油懸山西岸寺 下油懸町のあり澤土宗のりて知恩院の属に本尊の阿弥

佛を祀りて定朝乃化之像三尺圓基の雲海上人西蓮社

油懸地藏 門前の小堂に安座した地蔵尊の石像長五尺八寸

の像ありて油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

油懸の商人の祈願の所なり

源空寺 新大黒町のあり澤土宗のりて國光大師の舊跡二十五箇所の其一

用居し後阿彌陀佛の像ありて法然上人張子の教を安座に

乘生光明寺の祈願の所なり

同時の化ありとを

觀音寺 觀音寺町のあり本尊觀音の立像一尺五寸とあり

大光明寺 大光明寺町のあり澤土宗のりて國光大師の舊跡二十五箇所の其一

二尺二寸計りて五劫思惟の相の作首を善導大師の立像とあり

本教寺 本教寺町のあり澤土宗のりて國光大師の舊跡二十五箇所の其一

金札宮 金札宮町のあり澤土宗のりて國光大師の舊跡二十五箇所の其一

大黒寺 大黒寺町のあり澤土宗のりて國光大師の舊跡二十五箇所の其一

是古乃本尊あり澤土宗のりて國光大師の舊跡二十五箇所の其一

西方寺 西方寺町のあり澤土宗のりて國光大師の舊跡二十五箇所の其一

聖恩寺 聖恩寺町のあり澤土宗のりて國光大師の舊跡二十五箇所の其一

西本願寺 西本願寺町のあり澤土宗のりて國光大師の舊跡二十五箇所の其一

本住吉社 本住吉社のあり澤土宗のりて國光大師の舊跡二十五箇所の其一

明壽院 明壽院町のあり澤土宗のりて國光大師の舊跡二十五箇所の其一

光昭寺 光昭寺町のあり澤土宗のりて國光大師の舊跡二十五箇所の其一

安座に法像の依心とあり

彌陀とあり

彌陀とあり

彌陀とあり

彌陀とあり

彌陀とあり

彌陀とあり

彌陀とあり

彌陀とあり

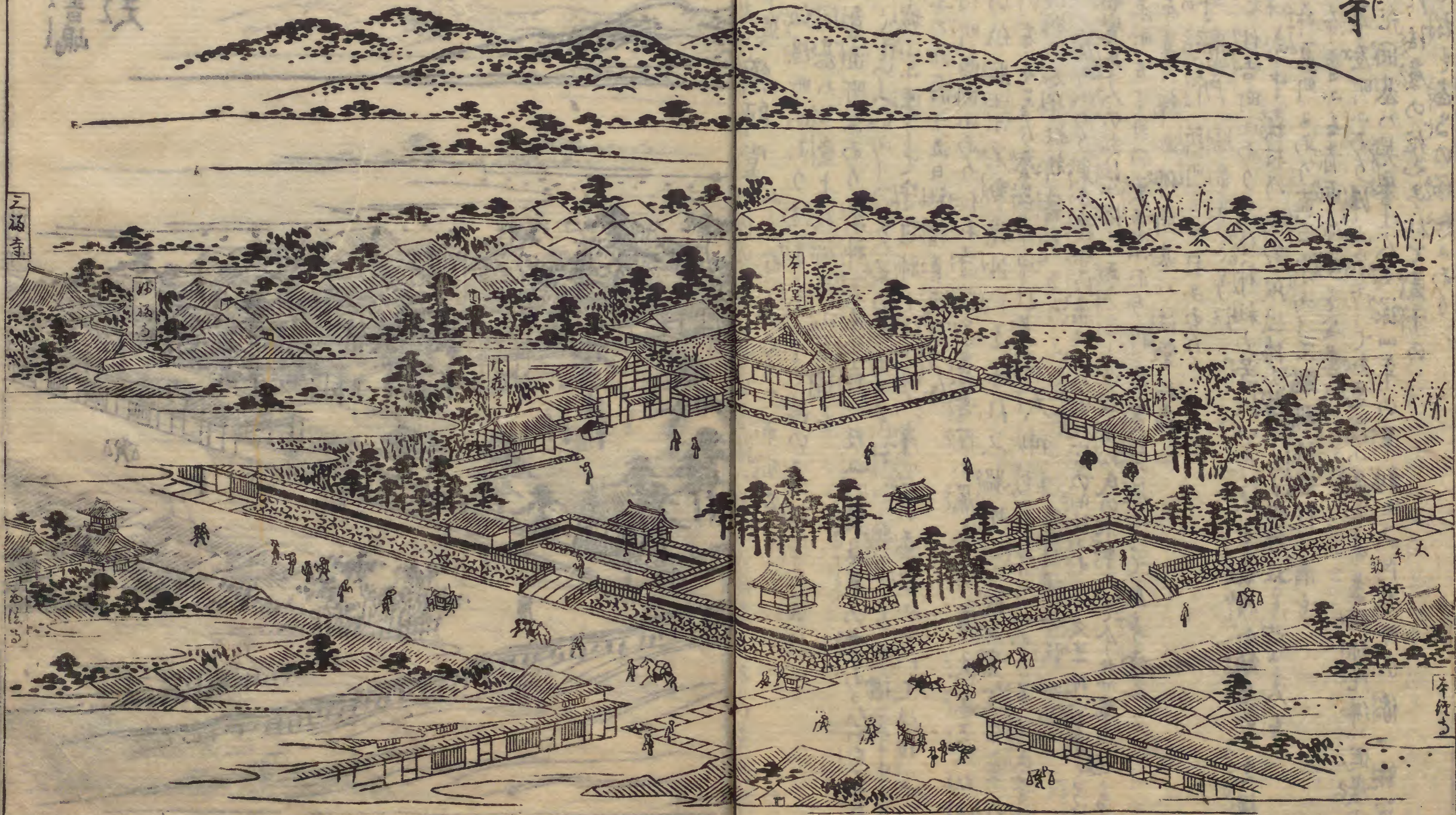
彌陀とあり

彌陀とあり

彌陀とあり

兼次天
河内中書

伏見
大光寺



三福寺

妙福寺

北極堂

本堂

大御所

本館

山陰道
松江府



伏見中書嶋
辨財天



遊女町

伏見京橋
住吉社



松野
寺
の
本立
班竹



寶國寺

安阿弥の元引掛の樹之同基ハ國奉上人

観音堂

立せの八中足心皆在履の縁と樹と長一尺五寸七步蓮臺

清水寺と同時之興田村將軍の守奉尊之江別観音寺の

念故寺

聚樂町の依之同基ハ頓善西堂天正十八年の草創

天満宮

鏡本町のあり本名ハ惠安海町といふ地也女町之今荒廢して終

白菊井

板橋七軒町のありは所蛭子社上板橋中の町あり

石馬稻荷社

墨深のあり山本氏守所左神宮

正覚寺

墨深のあり保土宗のあり是徳又属ハ本尊ハ三尊佛

墨深桜

今墨深寺庭ありは後世地名寺号等よりて年植は

世継物語云

今いむく因融院くればこし海して墨深桜ありろくろきふ
おて人のるるやるとて実なる中將
墨深に衣た世の花盛れつとてはもとよりそと

又墨深寺の什寶ハ左同敷吉公衣冠の畫終あり長谷川等伯の筆より

あられても色あはざる櫻本の花は面影墨深より

け并ハ細川玄旨の譲りて自筆ハ短冊書あり左同しハ採りて終

種蓮菴

近東開く所之末堂舎の建之あり

了峰寺

日所筋遠橋南ハあり禪宗曹洞派ありて洛陽宗仙寺ハ属ハ

西岸寺

下船實公の息女玉日君之則親鸞聖人の所臺所あり

草鞋

景親鸞聖人の國徑田の細鐵系國有乳ハ靴給ハ親係より

計丸

念珠右小杖と携草鞋を履て歩行ハ佛臺坐ハ山麓乃形ハ撰と

玉日君墓

堂乃南ハ

西休寺

毘首禪堂天の化之引掛乃相りて知恩院ハ属ハ本尊阿弥陀佛と

草創

長九年の



去来
 小町
 貴
 くら
 へ



安
 くれ
 へ
 漆
 少
 乃

漆
 草
 の
 里
 園
 屋
 店

徐草里 一箇の勝地にして古人の秀麗なり

鶏の名所なりて古人の秀麗なり

新古 今い入身をうら草の杖のたのみのよき木枯乃凡

徐草や誰古のたのみのよき木枯乃凡

道澄寺 徐草筋遠移小六町目あり本尊地蔵尊の形基の他ありて立像

常安寺 日所僧坊村の之り安樂行院の境内にあり本尊の聖天尊

石像五百羅漢 徐草石峰寺後山あり中央釋迦牟尼佛長六尺計の坐

嘉祥寺 日所僧坊村の之り安樂行院の境内にあり本尊の聖天尊

仁明天皇陵 今所記嘉祥二年二月己亥仁明帝清涼殿山崩の時皇太子殿

安樂行院 日所堂前南向あり後陽成院中和門院の清骨殿あり

法華堂 安樂行院あり高院の之り真宗院の地回あり

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

徐草や露やつらるるを若の枝そるを不れゆく

真宗院

安樂行院のむぐしあり、漸土宗りて西に深草院の奉寺

なり、殿の類、龍護殿と書して二重を根、又同く、又祈禱の類、正面

唐戸の上、みか、又真宗院乃、登額、堂内外陣乃、中、か、か、か、

通西軒、佛殿のむぐしあり、け、地、居、女、人、界、内、証、して、藩、屏、と

經藏、佛殿の西向あり、本尊釋迦佛坐像、一尺餘ありて、宝冠乃

鎮守社、佛殿乃、むぐしあり、け、地、居、女、人、界、内、証、して、藩、屏、と

同く、園空上人の寶治年中、此草創、之初の地、い、ま、れ、う、二、町、を、ろ

押の方、今、氏家の間、み、た、む、の、所、と、し、其、所、み、長、又、又、と、う、の、五、楹

當院中興の誓願寺乃、龍空上人、石、礎、あり、園空上人の塔、と、し

霞谷

今、今、草、原、の、門、の、西、園、忌、の、日、よ、り、ぬ

古今、草、原、の、門、の、西、園、忌、の、日、よ、り、ぬ、其、所、み、長、又、又、と、う、の、五、楹

夫本、系、原、の、庭、の、谷、み、と、り、の、雲、れ、む、う、う、う、う、一、録、倉、石、大、臣

伏見院陵

帝、陵、記、曰、原、草、と、云、る、葬、し、む、く、骨、と、同、所、後、深、草、院、帝、の、陵、法、善、堂、に、藏、む

後伏見院陵

今、安、樂、行、院、に、移、す、境、内、に、申、付、人、が、火、葬、所、法、善、堂、と、云、と、云、云、

履鼻

安、樂、行、院、の、西、園、房、村、申、西、の、方、守、町、計、あり、真、言、血、脈、抄、曰、聖、堂、尊

貞觀寺舊地

今、の、地、町、の、北、方、一、段、深、草、院、の、地、貞、觀、寺、の、舊、地、と、云、云、

善福寺

嘉、祥、寺、の、舊、地、と、云、云、

猿丸太夫墳

嘉、祥、寺、の、舊、地、と、云、云、

鎮守松

東、の、戒、壇、の、内、南、の、方、あり、

女御貞子墓

今、詳、し、く、女、御、貞、子、の、墓、と、云、云、

谷口

北、域、乃、内、小、葬、所、と、云、云、

從一位、深、草、院、の、源、草、と、云、云、

安樂行院
安樂行院



嘉祥寺
聖天尊





桓武天皇陵

延喜式曰桓武天皇陵在平安宮小津宇治

延喜式曰桓武天皇陵在平安宮小津宇治
又あり北城東八町西三町南五町小六町世實の角れニツの卒つり谷
加人宇戸五燈と云云 江次第二曰指荷ふの南れ野

十月廿一日都城山城國平城郡遷と同日二十五日崩
類聚國史曰延曆二十五年二月辛巳天皇崩と云々

葛野郡宇治野原に於て山陵の地と云々
山陵の地加後を神小池と云々

平安城百王の社と云々
とも遷都をたのいませと中華とそのため一依聰は白麟

桓武帝を今の京城を開たれむ
皇龍乃瑞のわこれとも天下の四民泰平の化は俗一幸

皇城の市は都會して雜貨故交易一あり雲水の勝と訪
て神窟佛懽を在觀と云々

又膺億年を彌らんををばく
右陵より亥子の間一町許の岸あり是天皇御葬の風輦と云々

神輿墳乃神輿のむぐ一町をり大橋のあり
柏原野乃西の野と云々桓武帝在柏原天皇と号は

霧谷乃西の野と云々桓武帝在柏原天皇と号は
福聚山海寶寺乃觀世音の菩薩の尊像あり

虚空藏石乃將軍地藏と云々
鎮守天滿宮乃靈驗あり

火光鏡乃南の傳來あり
鎮守天滿宮乃靈驗あり

鎮守天滿宮乃靈驗あり
鎮守天滿宮乃靈驗あり

鎮守天滿宮乃靈驗あり
鎮守天滿宮乃靈驗あり

西詠寺



谷口
桓武帝陵

桓武帝陵

御幸屋敷



大詠寺

西詠寺

西福寺

乃をくく大龜谷... 光教院

耶成就院

藤森の東と云ふ至... 光教院

隆剛寺

大龜谷乃をくく... 隆剛寺

等泉寺

大龜谷教賀町... 等泉寺

天王山

日所佛國寺... 天王山

本幡金辻

地蔵町より宇治... 本幡金辻

平治物語

明日乃朝右衛門尉... 平治物語

津妙寺旧蹟 六地藏町より宇治道乃有一町餘河以又凍入る幸二町を

新後拾遺集後述津園白みきりて津妙寺と送りたれけり常みと日平の

本幡山君のゆかりありてとらりてとらるる様を悲しき 高階宗成

本幡神社 本幡里路乃小あり柳大明神と号に

或記云一多勢小半の類もまると日毎多く死せりてを郷民
神を祈念し多しと駭きりし程ふ迄衛殿へ参りてはまに
中々しを仰ふ云祈乃神依候とてそと祈るあり柳明神内
と参り候れを祈り候て参りせられし神殿の捧けしよりた
けりて此にて作りし

ありてはてしなく柳の神ありと志めりてとらりてとらるる

田中社 旧所民居の一小町計林の中あり

尊勝山願行寺 本幡里あり奉尊阿弥陀佛天照を神乃告命ふりて

中本幡流義の宗祖相傳姓と名系氏より衣笠大紳言定能卿の孫あり
定親の子之法然上人威後相別深倉光明寺乃祖良忠上人と師範とて宗
乃要義と修学しスヶ年成経て浄土歸りて浄土草創して本幡山尊勝寺
と号しそれより年経て荒廢おこりて十九世深譽上人天正年中中興し今
乃如く賑賑改修再建せり

瀆薬師 同所里あり柳上寺と號を奉尊阿弥陀佛天照を神乃告命ふりて

不焼地藏 村上寺あり南の小堂あり觀音菩薩を奉尊地藏を奉尊地藏を奉尊

と四方を瑞氣感して宿人願へは所回縁乃時は坐像を奉尊地藏を奉尊

金岡宅 傳云画工金岡巨幡の住宅なり今詳し次金岡傳云

とて宇多天皇仁和四年勅小傷り所乃障子鴻儒乃傳記書に

賢聖の障子の南殿あり八間各 東四間あり一間

二間 諸葛亮 遺伯玉 三間 管仲 劉禹錫 四間 伊尹 傅說

西四間ありて一間 李贄 虞世南 二間 羊祜 楊雄 三間 顏延之 謝靈運

董仲舒 文翁 叔孫通 子產 蕭何 太公望 仲山甫 倪龜

平家物語の乃記瀆殿乃畫圖の障子ありてとらりて金岡書とらりて遠山乃

本幡の 本幡里乃西あり宇治川の支流ありて六地藏の

拾遺 本乃川ありてとらりて言の葉とらりてとらりてとらりて

いふせん人乃ら本幡川月をふりてとらりてとらりて

家隆



本
橋
川



五箇庄 本庄より黄檗に至るは四方の五庄あり山間庄小野庄

黄檗山萬福寺 地蔵堂のあり町計六間あり由縁編み建の後に

天王殿 山門の東上塔の北布衣像 堂内中央

天王像 殿右の安に益全身金色 之の東 持國天 西 廣目天

大雄寶殿 天王殿の東 本尊釋迦佛 坐像八尺計 脇士左 迦葉

阿難 坐像八尺計 十六羅漢 左右の邊に坐像八尺計 法堂

威德殿 帝王 將軍家の牌 安坐 祖師堂 北の方

達磨大師像 坐像二尺計 費隱禪師牌 堂内 選佛場 祖師堂

本尊觀音 坐像二尺計 脇士左 善財童子 八歳龍女 共坐像二尺計は所

伽藍堂 あり方小向 伽藍神像 椅子小懸長三尺餘衣服 兼土乃

禪悅堂 右堂の東 金奈羅像 中央の壇上安坐 坐像 牌堂 選佛場乃

本尊地藏 坐像二尺計全身金色 浴室 食堂乃後小向あり高泉

開山堂 山門の内小あり 隱元像 椅子小懸紫衣長四尺計拂子紙持し厨

勅書額 堂内小檜乃後水尾院隠元賜 朕聞臨濟之道徧行天下至天童雙徑光輝益盛唯我日域久之宗匠幸黃

乳簡在朕心 特賜大光普照國師之號以旌厥德欽哉故倫寬文十三年

四月二日 壽藏 門内乃右面あり壽藏の文字紺青紙に 隱元像 堂形六角ありて

の下の截石紙をり 隱元の老和尚之塔緋青紙に書と隱元之二字の朱筆に

隱元碑 壽藏乃下塔の地東の方あり 碑石和泉石高一丈計臺石電形

特賜大光普照國師塔銘 碑銘の上乃方篆書紙 大日本國城州黄檗山萬福禪寺開山 特賜大光普照國師隱元

大日本國城州黄檗山萬福禪寺開山 賜進士出身光祿太夫禮部尚書上桂國

太子太師中極殿大學士燕山杜立德拜撰 天生真人無位而尊 為黃檗祖乃臨濟孫 壯遊湖海洞徹法源

須弥菴納巨浸毛吞 既而瑞世主張宗門 化網總握玄要掀翻

鞭撻龍象變化鯨鯢 迅機電掃熱喝雷奔 大哉師也名震帝闕

東來兩化潭被三根 既週能事疾入泥洹 去來無住生死曷論

松岡一座蒼翠惟繁 浮圖永鎮正體長孝 瞻之仰之執不懷思

寶光萬古普照乾坤 寶永六季歲次己丑四月穀旦

鏡鈴石の宇治の里大谷の方
 東三町計と室戸の尾中
 高サの地一八尺計幅一廣
 所之入四尺寸末八尺寸計之
 石面如音梅の傍と鶴を
 案より凡人の化といふ
 夢は附乃大金いれ人の化新すん
 茶て日郭巨の極出や漢金の金と日他之
 凡人の心と因て退め山懐鈴石とよむの目地とすん



宇治
 蜻蛉石



舍利殿 山堂乃後之ふあり額 勅書額 堂内小掛付 後水尾帝より

北天曾自奉南山古佛真身傳世間十萬里程靈骨暖三千年後異光斑

宋皇述讚感生相源將願心欽定顏晨夕奉服膺久壁峯永仰五雲間

佛舍利師寬文己酉十月朔日 舍利五粒 塔内 脇士觀音 坐像八九寸計ありて

同壇 龍後水尾院宸影 畫圖給地法服淨長二尺四五寸拂子と 同壇右

韋駄天像 畫圖給地之像 藏經印板庫 佛殿乃巽山上二町計あり一切

普化墓 黃葉門前の南二町小あり傳之中頃無僧の組普化良房と云く者墳

浮舟宮 普化より四町計南宇治路の右ふあり源氏卷宇治十帖乃因形り祭社

三室戸山 三室戸寺の後ふ有範卿墓 三室戸寺の内ふあり有範卿親鸞聖人

頓阿庵 三室戸の屋敷乃より草庵集 茲乃中志のりあり淡竹の三室戸の庵あり

宇治 宇治の免道と書に應神天皇の皇子菟道稚郎皇子は地ふ出居し

子山城 園宇治郡あり北城東西十二町南北十二町守戸二烟云云

今の離宮ハ播磨宮ハは皇子乃靈衣祀所なり。宇治ハ京師より四里了

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

乃原ハ萬葉集に千早播磨宇治乃多相乃多美乃屋乃阿古尔

- 宇治十二景
- 春岸醱醑
- 朝日霽暉
- 扇芝孤松
- 清湍螢火
- 薄暮柴舟
- 三室紅楓
- 橋姬水社
- 長橋曉雪
- 浮船古祠
- 興聖晚鐘
- 釣殿夜月

宇治橋

神武天皇乃神代大化二年小道昭尚矣後造時日本紀云
宇治橋見今之橋乃西國之末神小架也長八十二間五尺五寸橋乃東瓜八宇
故今之假橋也

宇治橋銘

撰者詳見後

其疾如箭 條々往人 倚騎成市 欲迫重次
人馬亡命 從古至今 莫知抗葦 世有釋子 名曰道昭
大化元年 丙午之歲 攝立此橋 濟度人畜 即固徽善
爰發大願 結因此橋 成果彼折 法界衆生 普同此願
夢裡空中 導其苦綠

三集

宇治橋乃河風更吹下り水のそとそりて

家隆

續後拾遺 弘安之末宇治橋修葺の日 龜山院淨幸より

これを橋を秦の耐咸陽の都として謂橋板造漢之便門橋を修
張良の圯橋ありて兵書板授相如の橋柱の題して駟馬乃車に
系をば橋板武帝乃沛時架し初より南方に喉口とあり
それより来りて治承の初に橋板断て二井の法師等兩岸乃
大軍板驚し之曆ふい又橋を別て先陣板軍ふ来久れ乱及び

とびくの我ひ小宇治勢田乃橋板板のどくく物橋と星橋と
て豊臣乃沛代又の間の水と賞し霞ふつる柴舟と小舟の
板をとるも川邊の絶く小舟と舟の波ふはとあると志向ふよ
ろく糸魚板板に河辺に掉さしゆなりと堂の飛うと板興と
美景窺窺として山水の清暉板板會虹乃板の流ふ架と
寔に南方の奇觀ありて象板鶴風ふとりて李水が造りて七
星橋ともしはなす

朝日山

離宮八幡興聖寺 宇治里より東ありては葦より朝日出て
暮の日乃運くつら板板又中柱ふも月と賞して清光川の面
照るくつら銀色三千界乃面板とす

新古今 林森とて宇治川を方之りて雲井小ゆつ朝日山
紅葉都の六朝日乃色あつて板板とてくつら川板
葦葦の里乃卯花をさす布とすいふるれ

持入納言 公実
西園寺入道 前太政大臣
九京太主 死浦

喜撰嶽
宇治より
二里ありて
穂川村乃
山之上頂ふ
高き大井の
巖ありて
其中心ニ平
の石塔の岸に
ありて云々
ふくまわり
峯巖しく
分明なり



喜撰嶽

四楓亭



興聖寺

宇治川

平等院

宇治橋乃南あり橋門を水面にして額を中納言俊房卿の字に
今其趾蹟遺存九寺院乃題門の地を檢見する人ありは院の地境東を
は寺に草創し終人たれ門の地を檢見する人ありは院の地境東を
あるは水面にして西に後流ありては水面にして額を中納言俊房卿の字に
やと回廊ありて西に後流ありては水面にして額を中納言俊房卿の字に
と弱冠の同車に添へて西に後流ありては水面にして額を中納言俊房卿の字に
院に申すは西に後流ありては水面にして額を中納言俊房卿の字に
等院乃門を水面にして西に後流ありては水面にして額を中納言俊房卿の字に
之扇芝は西に後流ありては水面にして額を中納言俊房卿の字に

煙と本乃花や扇れ芝の露

當寺乃建之永承六年三月宇治園白頼通公之諸堂炎上と平
記武之頃楠新田而將之尊氏と合戦の附義貞と山崎成を
宇治の向正成敵の公殿を陣をたてて平院の
院乃不焼り宇治と焼りては水面にして額を中納言俊房卿の字に
寶藏忽ち炎上と平院の
宇治の向正成敵の公殿を陣をたてて平院の
堂塔佛刹を焼りては水面にして額を中納言俊房卿の字に
又の重なるに焼りては水面にして額を中納言俊房卿の字に
帳の中苔草蒲法の師梅人掛柳さるるに焼りては水面にして額を中納言俊房卿の字に
乃宝殿と焼りては水面にして額を中納言俊房卿の字に

法皇堂

隆國の醍醐天皇乃孫孫從四位下少將惟賢乃男ありて正二位宇治
乃納言と号と王代一覽曰永保元年正月大納言源隆國七十一歳
して致仕し号は人宇治の御居して常來と訪ふもの昔物語と
をなせしを集めて雙帝と号し是と宇治大納言物語と云ふこと云々
法皇堂乃前法皇乃建之宇治の御居して常來と訪ふもの昔物語と
月乃旗嶋乃内乃地名なり今詳しは所四面に焼りて東に宇治門
坂賞して釣月と号し秋見乃物月桂乃釣形乃佳境にして雙
れ地よりは不とり天正元年義昭公信長公歿して壘を築き終る
去れを植樹城と号し耕石庵宇治の東本願寺の抱所之常如上人の息
信長乃不滅れ終る耕石庵宇治の東本願寺の抱所之常如上人の息
栗子山宇治一の坂より州の方十町ありては水面にして額を中納言俊房卿の字に
て藤首と

右法師栗子山と名をりていづれ物具と云ふをり

神明宮

右の山あり故小神明山と号し保勞内外の兩宮坂ありて
所乃御講心乃宮日社住吉のやしる指為秘天ノヤノるを
衣過る愈ら他人現し形相と役行者を祀りては水面にして額を中納言俊房卿の字に
地小神明を祀りては水面にして額を中納言俊房卿の字に
久心乃りて是時を延喜四年に社地の方境九町四面形り今おわく
變易あり



田原 宇治橋より午末の方二里あり此所綴喜郡あり

岩本 宇治橋より北に約二里あり此所綴喜郡あり

大御堂 荒木村民家の小あり堂尊乃堂十一面觀音立像八尺計

八幡宮 田原皇子乃所廟の上あり

龜井山真言院 岩本村民居の南あり堂尊乃堂十一面觀音立像八尺計

龜井 弘法大師の設あり相傳鎮守

地藏堂 佛殿乃あり延命地藏尊安に他日若あり坐像

普陀山禪定寺 田原郷中禪定寺あり

巖平山龍安寺 同郷名村の民家の方あり

寂光山善福寺 同所民家の南あり

養栗焼栗林 同郷名村の南あり

お代の林とてたつてん座に書るもあはれい

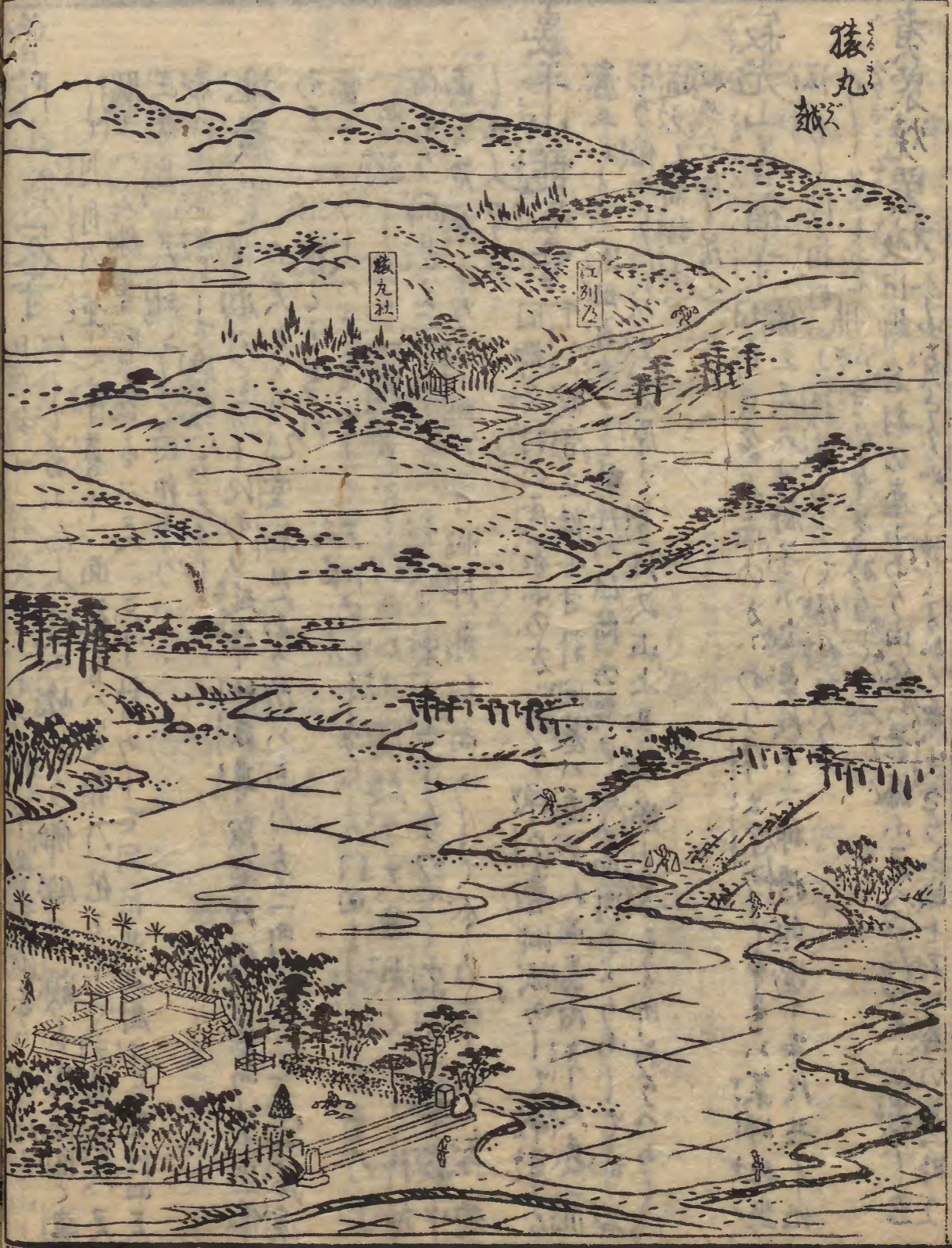
田原郷中禪定寺あり... 巖平山龍安寺... 寂光山善福寺... 養栗焼栗林... 同郷名村の民家の方あり... 同所民家の南あり... 同郷名村の南あり

田原郷

田原郷
禪定寺

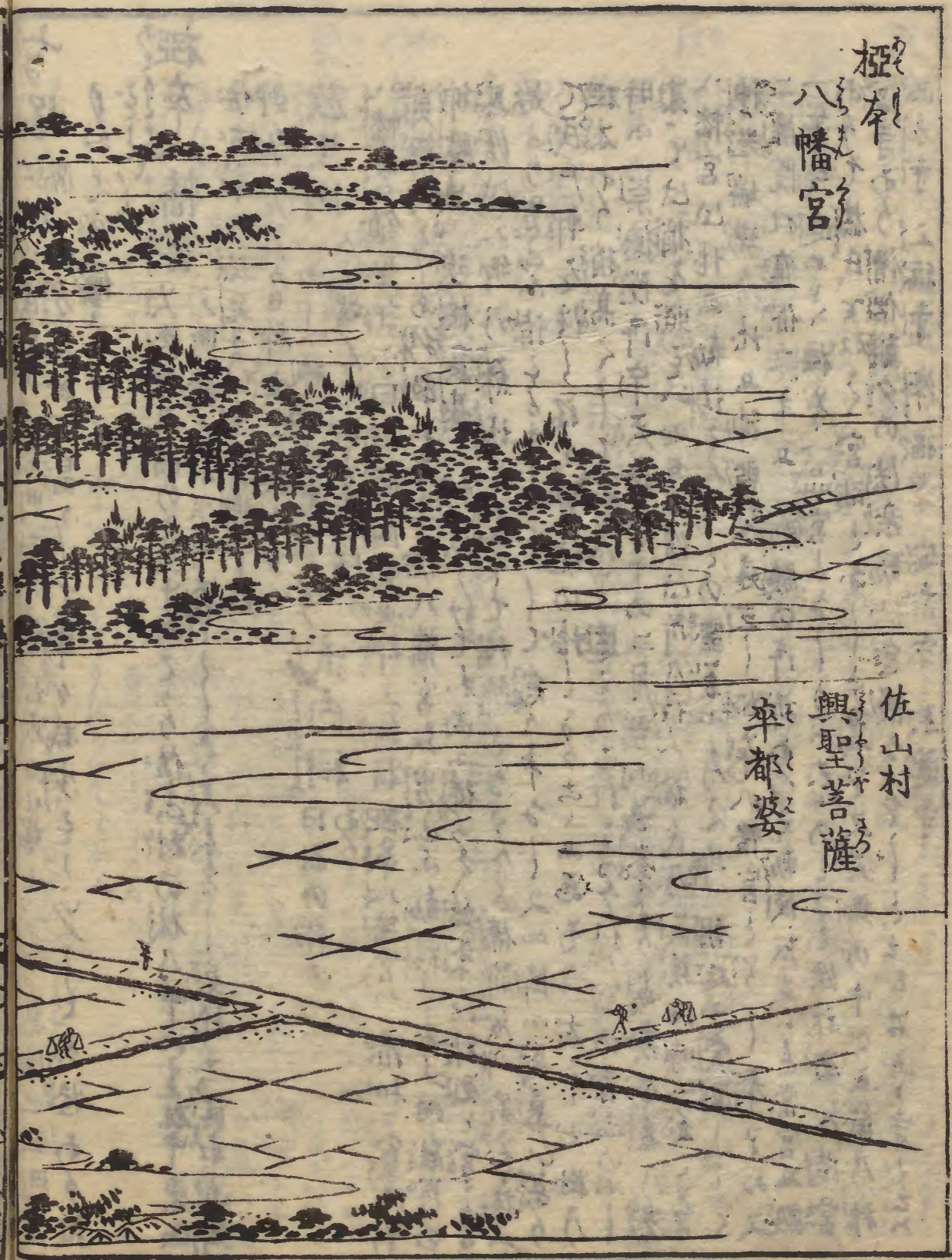


猿丸









西方寺

三郷乃日あり久壽年中如一人の用所之本尊阿彌陀佛

三福寺

日所小あり興聖菩薩一坐尊の像あり

淨福寺

佐山あり本尊觀世音の安阿彌乃他あり

藥蓮寺

林村あり本尊藥師佛の定朝の他

安樂寺

後二條院の如后西院基子公乃本願あり

興聖菩薩殺生制誠塔婆

現山東の口あり今土中不壓とて

指月塚

大久保の異平河村氏家乃東南あり

鴻嶋

車塚の北あり惣として

久世神社

大和街道久世の茶店のをう

三田坂

久世の南十四五町あり大和街道乃中

久世鷺坂

久世のをう山あり仙意抄の曰鷺坂

小岳峯

日所と久とあり今

長比舊趾

長比村民居の東小町計山の麓

御集

雪より皆とて白妙乃

夫木 山城の久世の系れ志の

富野天神宮

長化村の西富野民居の長林の中あり又神靈社本社の南にあり己上土人生土神也例祭九月又日神輿一基あり

水主社

富野の西十町氷主村民居の南にあり大月新嘗就中氷主坐天照御意神三伴日と説く山背大國意命神二座新嘗奉り

白釋迦堂

水主村人家の間にあり本尊釋迦佛の聖徳太子の化にして立像長又尺計は本尊故土人白釋迦と稱す中頃莊敷た

十六松

長化の南大松街道の東側にあり一あり一あり大木の松十六本あり

推尾山

中村乃押野乃東山ありと云

推尾龍

唐檀龍といふ

梵天宮

市野の南多賀村卯辰の間にあり堅須鳥居あり梵天社號土人譯を奉りといふ

地藏地

是所乃生土神也例祭九月三日

玉水井

長化の南一里半あり

井堤在在臣田蹟

玉水里の異二河より石垣村乃南上村のむぐの麓あり

玉水

玉水といふ水

冬

冬をいふ水

玉

玉をいふ水

玉

玉をいふ水

玉

玉をいふ水

玉

玉をいふ水

玉

玉をいふ水

玉

玉をいふ水

玉

玉をいふ水

玉

玉をいふ水

玉

玉をいふ水

玉

玉をいふ水

玉

玉をいふ水

玉

玉をいふ水

玉

玉をいふ水



音東

崎
か
の
川

と
う
り

く
の
れ
と

玉
水
里

胡
日
塚

坂
名
屋

イ
ウ
ノ
ナ

大
三
寺

村
上

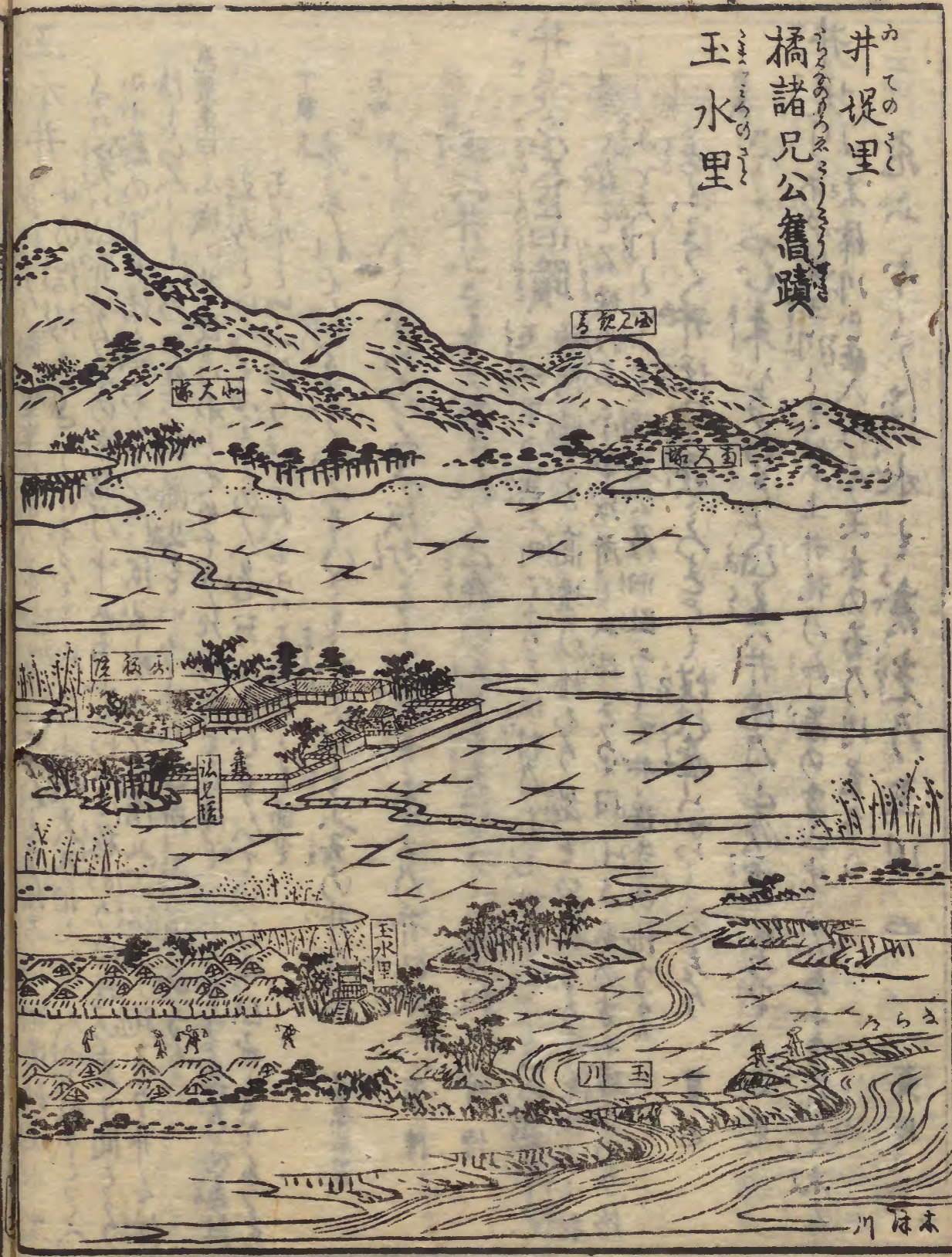
寺
原
茶

社
中
田

玉
井
寺

玉
川
寺

小
野



井
堤
里
橋
諸
兄
公
舊
蹟
玉
水
里

石
記
之
山

大
山

大
山

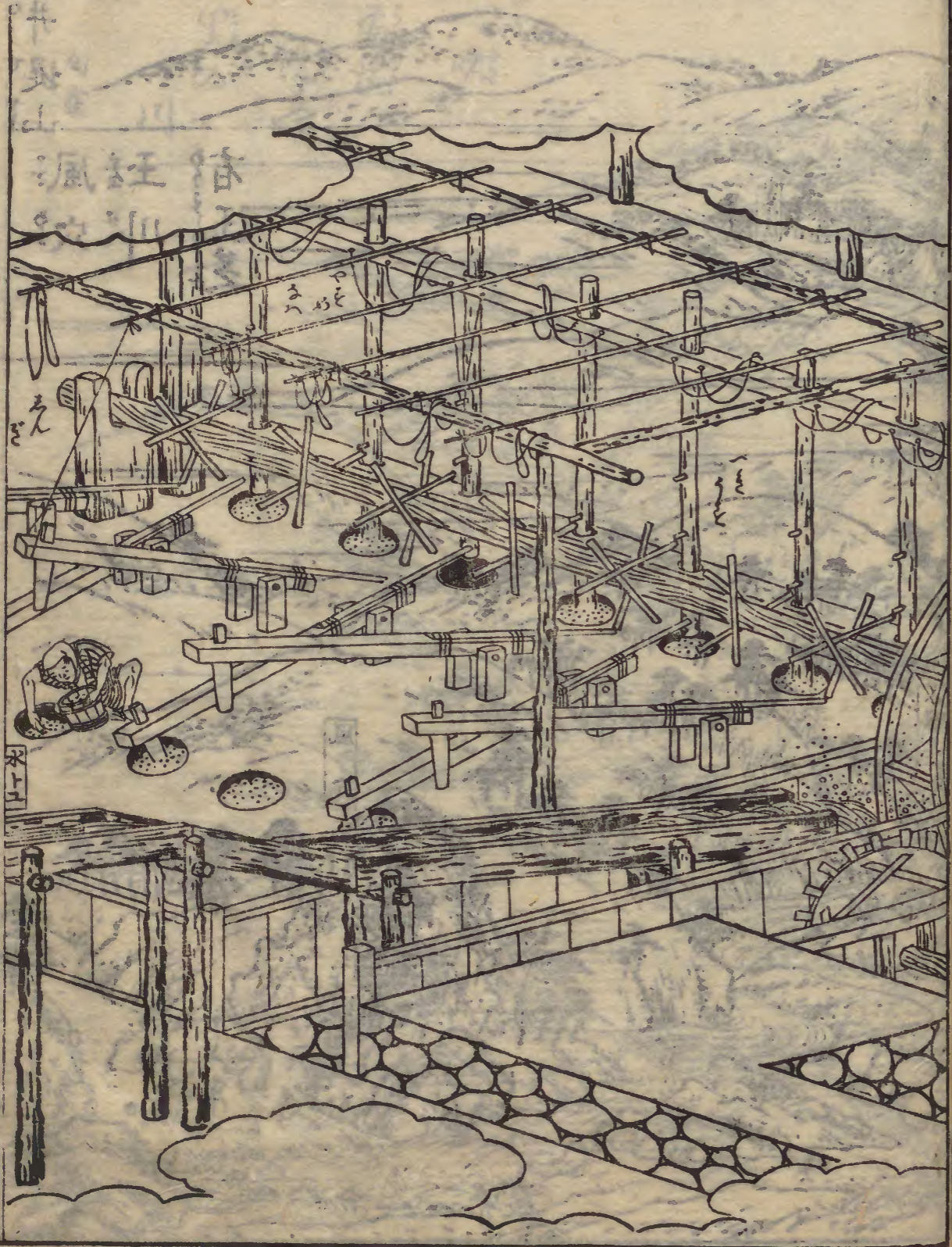
石
記
之
山

法
住
院

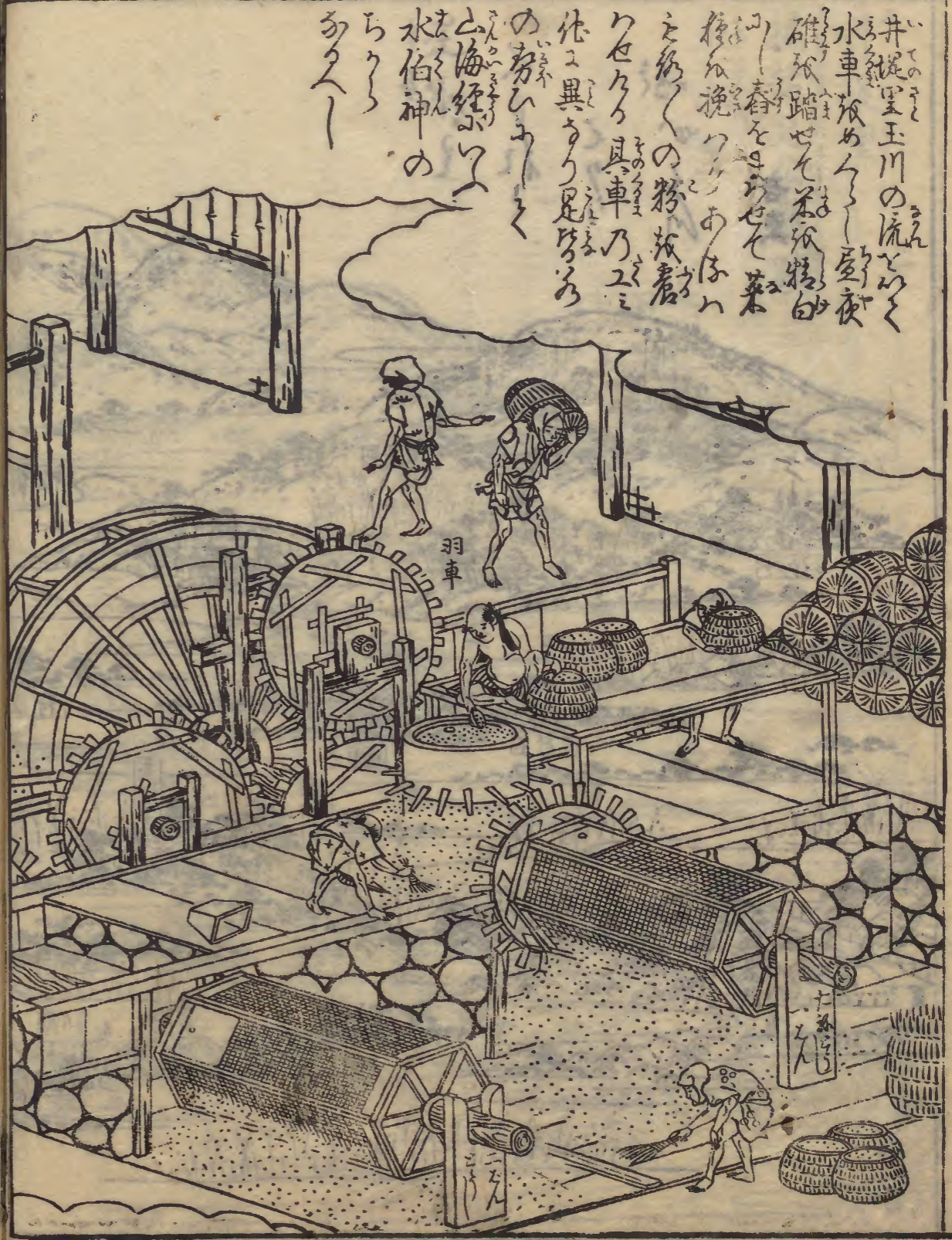
玉
水
里

玉
川

川
原
木



井山玉川の流を以て
 水車坂めぐる一帯は
 碓氷踏を石坂踏
 山一帯を以てせしむ
 後を挽く所のあり
 之の務は春の
 りせり具車乃之
 休之異なり足踏
 の勢いあり
 山海經の
 水伯神の
 らるる
 あり





白空
川の
洗
流
山
吹

有王社

村

場

玉川



井堤山

風穴
玉川
有王社

風穴

井堤蛙舊趾 玉水里乃東の方なり今田と云は所乃家と伝説云と云
井堤茶蔕舊蹟 玉水の東乃下井堤里あり又玉川の支流小植し
御集 山吹の花れきうきいありしきまの井堤乃里人 順徳院

壬集 ち存りし井堤の里人れむしおてきんん後代を 家隆

井堤中路 井堤里あり古乃春日社 井堤山の上二町計あり計所
名寄 人志とんんへんあいのそと月る井堤の中庭 中勢

井堤山 上井堤のむぐりの井堤石橋 今伝てあり
名寄 井堤のふよをきうたふまきま集れ白をきかへてそと 好忠

哥枕 井堤の岩橋しつらすてふもきうとて嘆を歎を 後人云

井堤寺旧跡 井堤山あり冷泉家記曰小野小町六十九歳して井堤寺に於て死すと云
下馬石 春日社の下馬石ありしと云ふあり下馬乃字截石の面乃鑄傳云弘法

右王芝 井堤山の南乃右王芝あり今傳云一里餘あり其地右乃山脈
風穴 井堤より右王芝に至る路に中間三町あり大岩あり

藪渡口 大和街道津川乃渡口に玉水の南七町あり此處に師匠伝
鳥井 藪の傍にの東乃堤茶蔕道のたれ里ありしと云ふあり今傳云四天王寺は別勝尾と云

光明寺舊蹟 石垣村の南織田乃むりしと云ふあり今傳云十八町の
あり其の中間に國見嶽といふは所南北及び西の方晴けりしと云ふあり

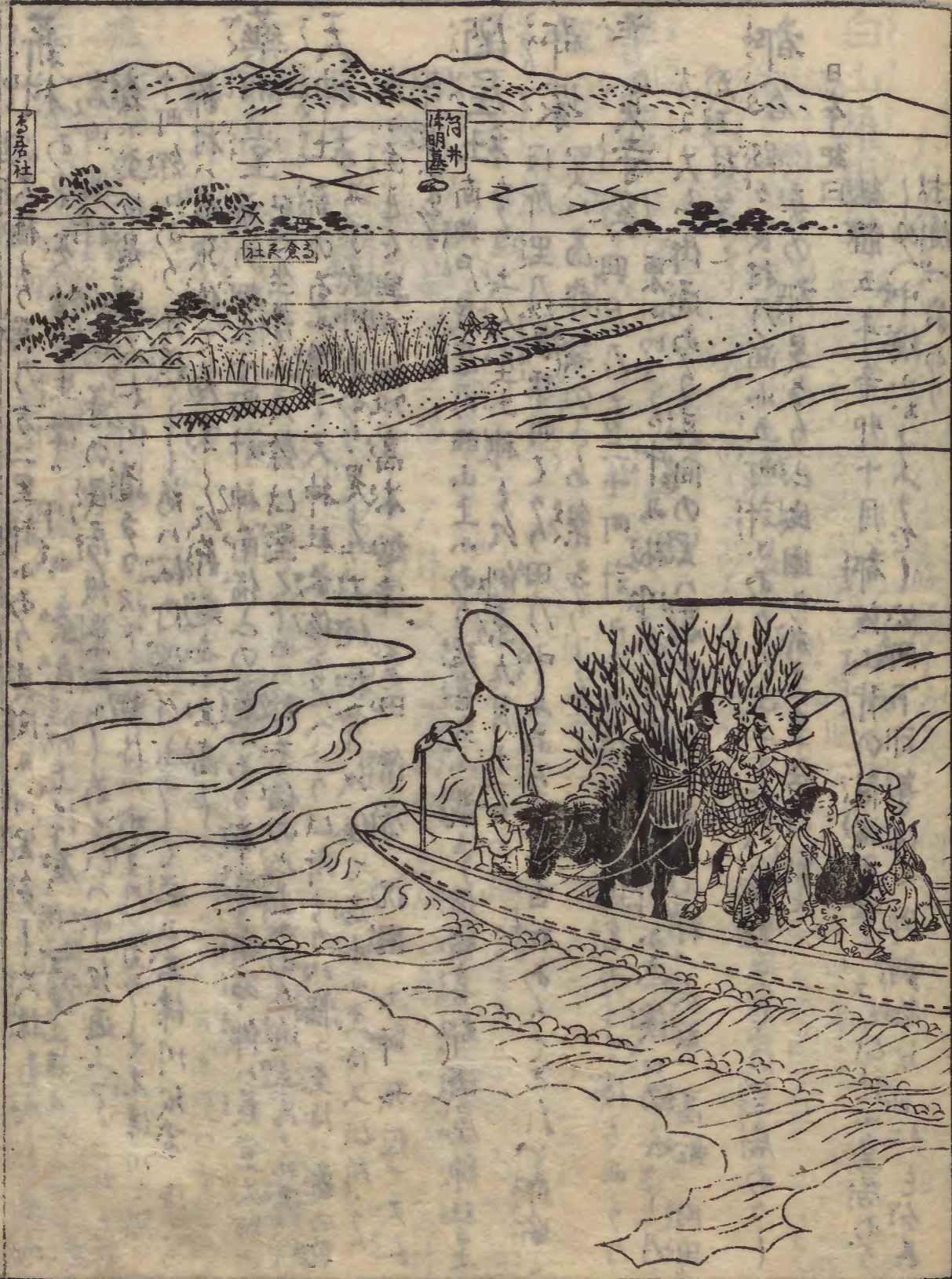
拾遺 僧都模基光明山の慈母とてすてはかりける
うやまう浮世と出ていふ本はなるが月の月と云人 楠社之

法師のふあ人やりと月影のふほさるる夜をそと
僧都模基

柏里 上柏下柏兩村あり委をあはれひくさういふへい此所ふ瓜と多く伝と
拾遺 名産と伝山里瓜木をよ味と
ささあめなるある瓜のつとそと云ふより人柏は伝とこ 三位國章

玉吟 五月雨のころ瓜をき泉川物ふんえとそとわねる 家隆
天木 瓜をきわきとて人ほるの物那の里乃煙うらり 公任

神童寺越 柏里の長小あり四面にあて中小若所神童寺あり則神童ち伝所乃
名産と伝又住還道あり空雲伝経て伊賀上野ふ出



救の渡口



薪村

定大橋より異乃方二里許あり其間五村あり大橋より順次

岩田

薪村の北にあり其間五村あり大橋より順次

藥師堂

薪の押二十町計神南備との麓あり本尊藥師佛の慈覺大師の

天神社

薪の南にあり本尊天神社本尊の御祭神は天神社本尊の御祭神

酒屋社

南興戸民居乃西山上あり延喜式に載るは後喜郡酒屋神社是

郡塚

日所里乃根津町とあり田乃中あり上古松ありと云れと郡塚

普賢寺

興戸乃有二十町計ありは所の徳名ありて溪と西より

都谷

良村乃西五町計あり人王二十七代繼體天皇の皇居あり

日本紀

繼體五年辛卯十月都谷山背の筒城遷居あり

名山

たゞ里つたの系乃久産燈り久と名あり

白山権現社

良の西上村ありは所の字は津所内と云天福の近衛

草内渡

本津川流をぐるり玉水に至は渡口を平記ふ草内村を

飯田

飯田乃所乃豊後と云飯田乃所乃豊後と云

若王寺

下御民居乃南あり當寺若王寺の神宮寺今津土宗此僧

若一王子社

佛殿の稻荷社日所

傳云

當寺の二井乃智燈大師の御基ありて古の伽藍龜々うり又最勝寺

圓満院

若王寺の座主ありて五輪高一丈計圓満院の二井乃

藏園山

天神宮土人住居と南小ありて

稻八間

下稻八間南稻八間

武内社

土人生土神と云

日本紀

日本紀

日本紀

日本紀

日本紀

日本紀

日本紀

日本紀

日本紀

日本紀

日本紀

日本紀

下
若王寺

京道坂

埋心坊乃

落葉
うむ

衆雲



祝園
春日社



祝園

祝園 郡八町乃東南ふあり民居大街道の東西ふあり祝園乃名義を

神武天皇の神宇逆臣長髓皮成威討つて祝園に鎮つて其の

靈を止めて民を慰むと故こそ乃靈成祀し祝園に鎮つて其の

泰とる靈成鎮は乃義ありふよりて名とせり園ハ其の社也と

り所の政俗毎年正月初乃申日より至るまで神事成る其

祭食物振調ふる一切の物成祭に神事成る其の

毎正月初月九日 經子集慶田の社ハ臨幸の時 祭相の異なる

所乃凡俗なり 祝園社 今詳る次 代實録曰 祝園神ハ

春日社 乃所民居乃小あり 祭神 乃大宮土人生土神と云々

大塚 高五間巡行 祝園乃有一里ふあり 地ハ土師あり云々

土師 又土師氏の人居の所ハ 祭神 乃大宮土人生土神と云々

相樂 乃所名 則相樂郡乃内あり 乃所 乃國押の塚之土師のあり

本津川 乃呼津加和と訓と一名泉川あり 乃輪韓川と云々

泉川橋 乃古橋あり 樺井渡 泉川のワナあり

大智寺 乃大智のむぐ二町ふあり 宗音律あり 奉尊文殊菩薩

誓願寺 乃大智寺乃南二町計ふあり 津宗あり 奉尊十一面觀音ハ基

動觀音 乃觀音の南二十町本一あり 地あり 奉尊十一面觀音ハ基

荒神石 乃觀音の南二十町本一あり 地あり 奉尊十一面觀音ハ基



社

社

社

石



市の坂
春日社
勃記

法然上人
念
佛
石

社

社

社



とみき
おた
都の
こつり
標美



相傳乃里の
右一の坂れ
かとりつ城
大木の塚
屋一足より
都へと
一里小道

重衡
首洗池
和泉式部
墳



本津
大智寺



上伯
辨天山
鯉鮒石
玉臺寺



上柏
松尾社



御
霊社

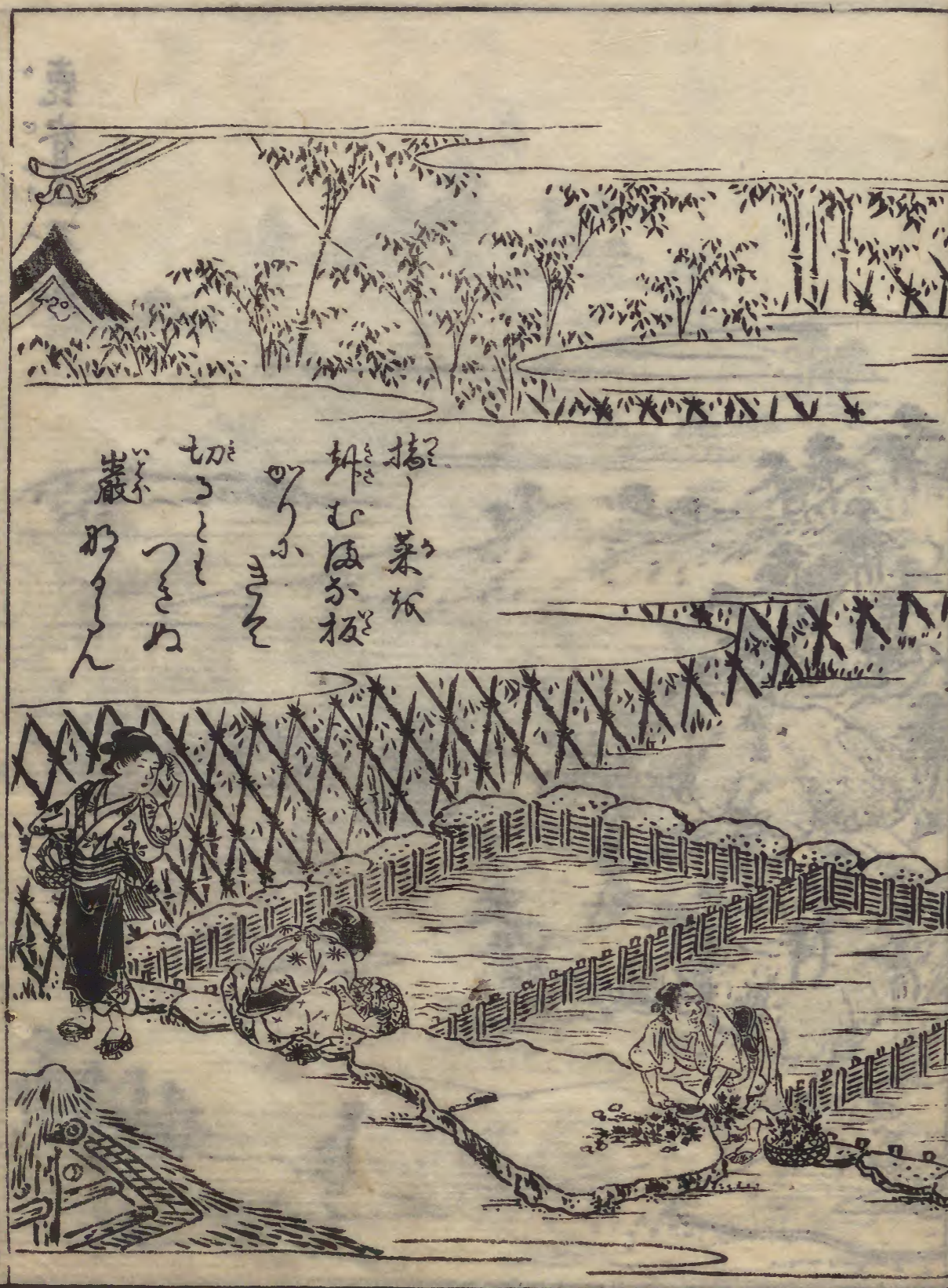


瓶原
願應寺



上柏
泉橋寺

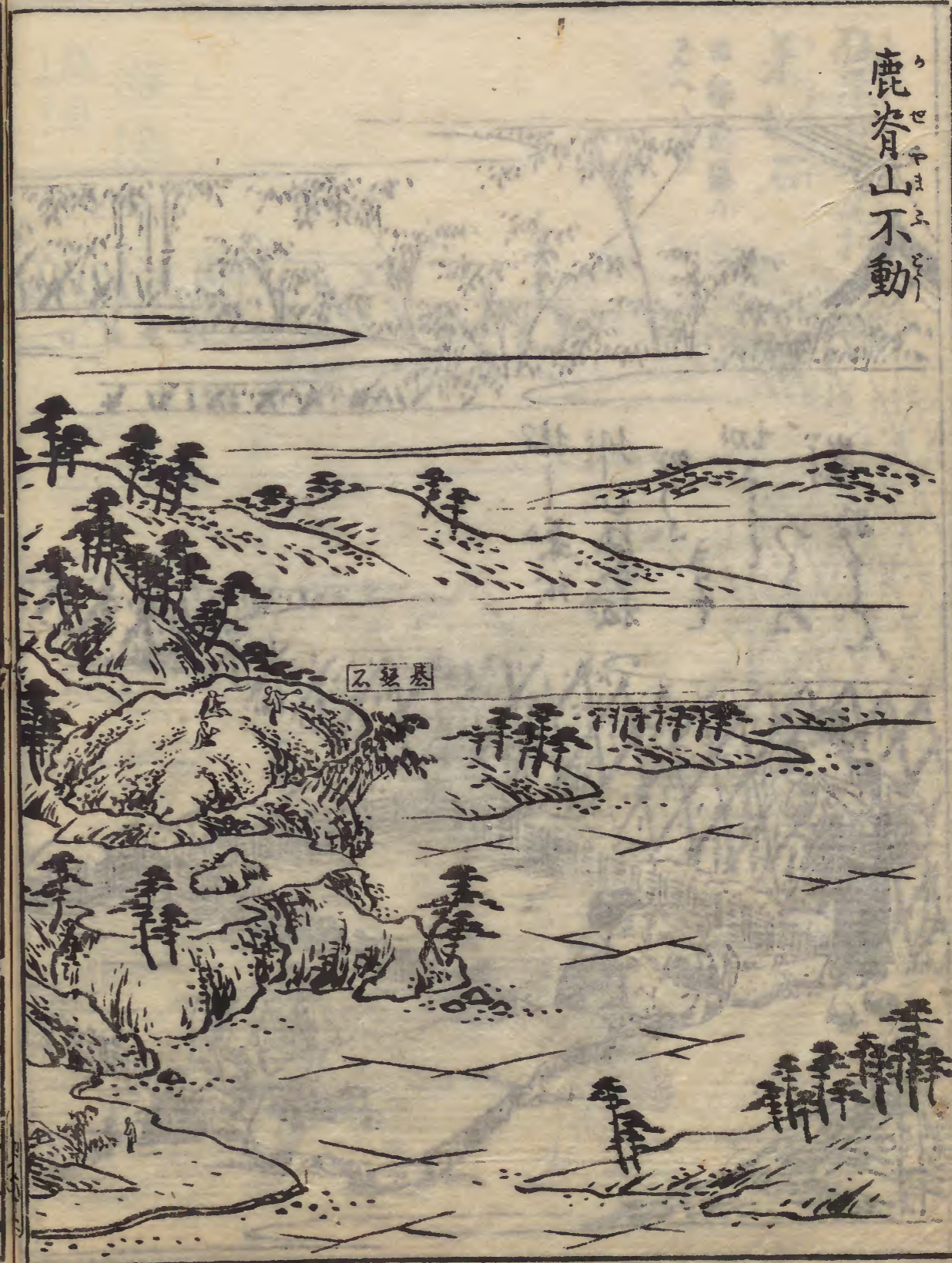




掛一菜板
 坪む板か板
 切つと
 巖
 岩
 岩



瓶原井平尾村
 菜切石
 由縁前縁小
 又へとら



鹿脊山不動

瓶原 本津の縣二十町計ありありの二日原 二香原 龜原 二鹿原 二...

御靈社 瓶原の原村ありありの二日原 二香原 龜原 二鹿原 二...

瓶原離宮 舊地詳し日本紀曰五平十一年二月甲午 天皇遷原の...

清見川原 瓶原國崎村ありありの二日原 二香原 龜原 二鹿原 二...

加茂渡口 瓶原の原村ありありの二日原 二香原 龜原 二鹿原 二...

法華寺野 鴨乃渡の原ありありの二日原 二香原 龜原 二鹿原 二...

淨瑠璃寺 法華寺村ありありの二日原 二香原 龜原 二鹿原 二...

加茂 山 眞代實録曰貞觀八年六月十日丙寅 前筑前守從五位下清原...

岡田 眞代實録曰貞觀八年六月十日丙寅 前筑前守從五位下清原...

加茂社 加茂里村ありありの二日原 二香原 龜原 二鹿原 二...

東明寺 後世今宗ありありの二日原 二香原 龜原 二鹿原 二...

岩船寺 後世今宗ありありの二日原 二香原 龜原 二鹿原 二...

願興寺 後世今宗ありありの二日原 二香原 龜原 二鹿原 二...

子 紀 又 尺 の 阿 茶 心

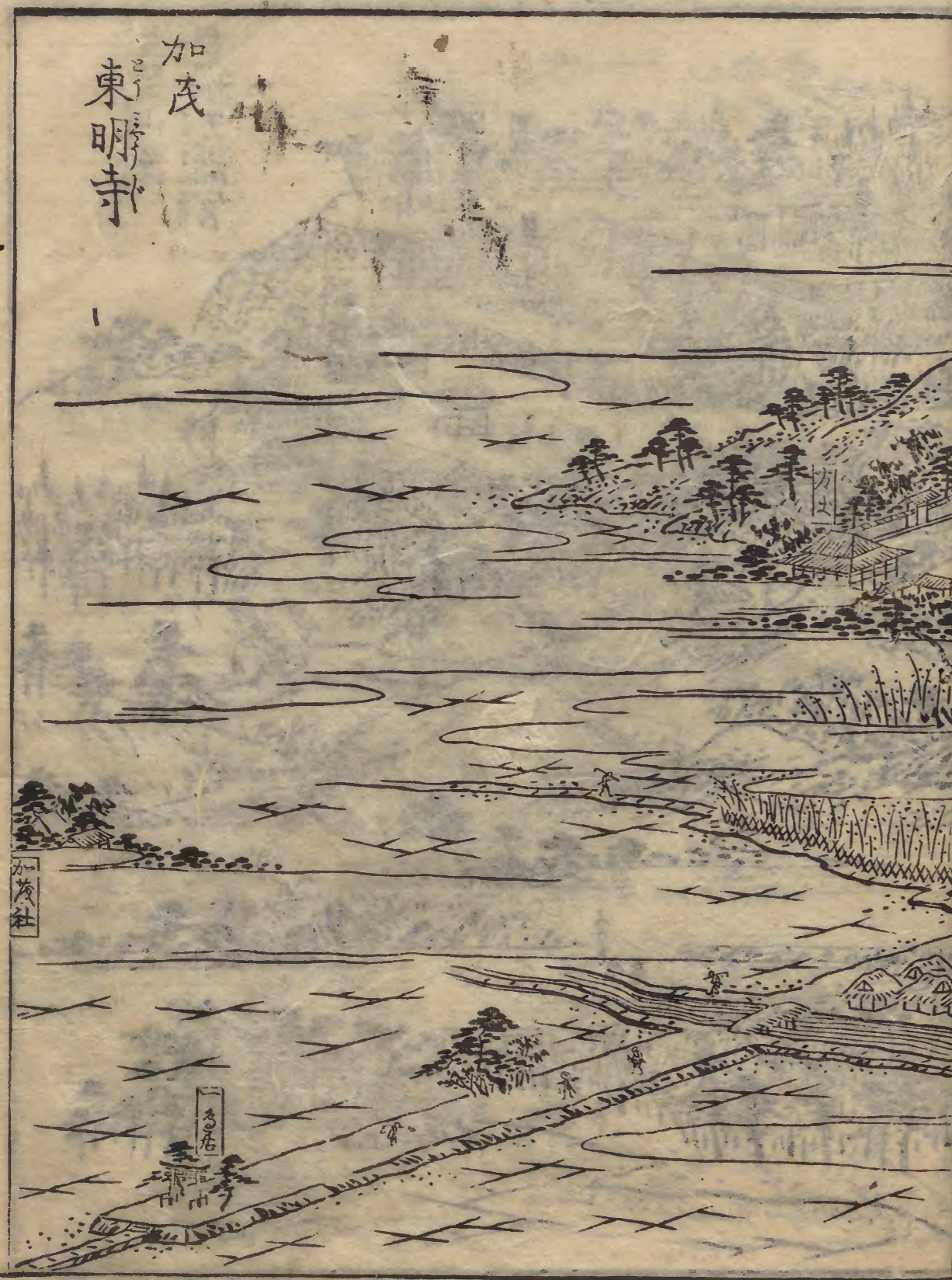
高嶺山
岩船寺



西塔尾
小田原山
浄瑠璃寺



加茂
東明寺





笠置山麓
栗栖天満宮

トリイ



皇居跡

のり

乃

漢

漢

胎

金剛

胎

本

笠置山
名石之細圖

外
佛像石 十丈余

岩吹見



石

石

解

子

芝置皇居延和元年九月後醍醐天皇御遷幸於此所之弥勒石の

雙ふ其間ハ備乃の方弥勒石乃の巖に至りて地形たのりなり

増鏡云後醍醐天皇御遷幸於此所之弥勒石の巖に至りて地形たのりなり

右平記云芝置乃城と申す高下して一坪の間に葦草茂りて谷深くして石何

の香巻道成に石を築きて守りしなり後醍醐天皇御遷幸於此所之弥勒石の巖に至りて地形たのりなり

陶山小見山夜討道延和元年九月晦日の幸なり目ととをたふす

左平記云其夜を九月晦日の幸なり目ととをたふす

かけり風風吹たり上りたる二町をくわたりて古松林に上りて芝置の所

あり屏風風吹たり上りたる二町をくわたりて古松林に上りて芝置の所

山麓の岩の上を登りて上りて芝置の所

岩乃上より登りて上りて芝置の所

都名所圖會拾遺自叙

白虎通曰京師者何謂也千里之邑號也蓋法

日月之徑千里云古昔桓武帝建基於宇多

邑詔之曰平安城披十二之通門立九重之廣

路街衢洞達櫛比鱗次而轟之可謂不覩皇居

壯安知天子尊凡其山川之形勝土地之秀

異甲乎天下矣余幸生皇州間居洛陽而荷簞

瓢蓑笠之具翱翔於東北之丘壑逍遙於西南

之村野躡巖臨水坐於桑下憩於松陰或訪神

窟或過佛壑無不尋問名勝之地無不搜求古蹟之幽時之誘引畫工春朝齊隨見即摸之遵聞即筆之矣嚮著都名所圖會六卷然而所恨則顯古而晦今者多矣今不昭之則後世益湮沒而不能知其蹤跡豈不多憾哉由是更補脫漏重著五卷而續前編之後焉抑自

明王之制封畿建都邑已來到於千載治于治國平天下之福委姓於山林娛心於烟霞伴苔蹊於樵童採妖艷花香誘蒼浪於漁父遭清朗明月也近復著大和名所圖會須磨志石名所圖會等之二書然而邦畿千里山川之美景豈可竭筆端哉斑固之答賓戲或曰以無功受著述家之譏若好古蹟博雅君子與我同志則所弗享毀也昔

天明六丙午歲七月採筆於永昌堂

平安 秋里 舜福 湘夕題



の大人乃上き部よみきましくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
たもひも。いへるさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
言たまひさらありて。やうく世もさくさくさくさくさくさくさくさくさく
なりて。さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
ゆき。今もそのさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
りりりね。さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
いへるさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

天明七年六月望日

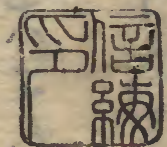
浪速人春朝齋竹原信繁志る氏

天保十年六月望日

浪速人春朝齋竹原信繁志る氏

畫工 浪花

春朝齋竹原信繁



天明七年未秋新板

二條通富小路東江入

須原屋平左衛門

東高瀬筋正面上上丁

俵屋清兵衛

心齋橋通唐物町南江入

河内屋太助

浪華吉肆

京都書肆

名所記總目錄

浪華心齋橋通唐物町書林

河内屋太助梓行

平安秋里離高輯

五畿内名所圖會 全部三冊

各圖社傳記の傳記山川谷國津村里名賢英哲の経歴を詳し一名所を撰りて其の風俗とその事々々々を記す其の文意を今に傳へて其の實を全備大成の云以下各所圖會

都名所圖會 全部六冊

都拾遺名所圖會 全部五冊

大和名所圖會 全部七冊

河内名所圖會 全部六冊

和泉名所圖會 全部四冊

根津名所圖會 全部三冊

東海道名所圖會

全部六冊

本曾路名所圖會

全部七冊

伊勢路名所圖會

全部六冊

仁色も別本あり
大注も別本あり
其の注も別本あり
其の注も別本あり
其の注も別本あり

北陸東奥勝地真景

北四輩順拜圖會

全部十册

山城近江越前加賀越中越後信濃
上野等八箇國

武藏下総常陸陸奥出羽下野相模
甲斐駿河遠江美濃尾張美濃後鳥羽

伊勢大和河内播磨備前備後

山陰道名所圖會

全部七册 近刊

南海道名所圖會

全部世册

紀伊國名所圖會 全部五册

淡路阿波備前備後

同後集續編 嗣出

伊豫土佐讃岐

文中題待諸名家寄合書

唐土名勝圖會

直隸省部 全部六册

此書ハ唐土名勝圖會ノ續編ナリ
唐土名勝圖會ノ後ハ唐土名勝圖會ノ續編ナリ
唐土名勝圖會ノ後ハ唐土名勝圖會ノ續編ナリ
唐土名勝圖會ノ後ハ唐土名勝圖會ノ續編ナリ
唐土名勝圖會ノ後ハ唐土名勝圖會ノ續編ナリ
唐土名勝圖會ノ後ハ唐土名勝圖會ノ續編ナリ
唐土名勝圖會ノ後ハ唐土名勝圖會ノ續編ナリ
唐土名勝圖會ノ後ハ唐土名勝圖會ノ續編ナリ
唐土名勝圖會ノ後ハ唐土名勝圖會ノ續編ナリ
唐土名勝圖會ノ後ハ唐土名勝圖會ノ續編ナリ

唐土訓蒙圖會

平任專安先生書
後素軒橋本圖會
全部十五册

山城名勝志

全部二十二册
函十二枚箱入

山列名勝志

全部二十二册

帝都雅景覽

文鳳山人書
全部二册

系の系

全部二册
二面

都細見之圖

懐中折本一册

都名所之図

懐中小本一册

花洛細見圖

折本十五册
後素軒橋本圖會

出來夜系七卷

全部七册

京師覽

全部拾五册

都茶時記

全部七册

日本風土記 全部 八冊

増補 大日本國花鳥集記 全部 廿冊
新板 箱入 近刻

難波丸綱目 全部 七冊

撰別名跡志 全部 廿冊

泉州志 全部 六冊

長崎記行 此書志乃先生
乃の記名正徳全一
を考る

東國名勝志 全部 五冊

東洋記行 全部 五冊

西國船政記 西國船政志乃先生の家
日記正徳全道の元
を考る

都下名勝 全部 二冊

此書は正徳及の江戸城下町名勝を撰りて門外漢の
ハ光主の江戸海陸の行状記に採録されし名勝を
四ノ巻に採録して在るを以て、永徳正徳名勝を以て
堂上名勝と名づけし書也。江戸名勝を撰りて門外漢
ハ用違はれし名勝を撰りて門外漢の江戸名勝を撰り
大坂市中名勝志乃先生の家日記正徳全道の元
商人江田金吾名勝、松澤宗村江田金吾の江戸名勝
撰名地考名勝志乃先生の家日記正徳全道の元

任吉名勝圖會 全部 五冊

勝地山水奇観 浪華旭江縮園
前後各四冊

撰津名所圖會 全部 十冊

本編乃正徳十二年社林園名所日記正徳全
上ノ巻に採録されし名勝を以て、永徳正徳名勝
ハ用違はれし名勝を撰りて門外漢の江戸名勝を撰り

難波名勝 浪華旭江縮園
前後各五冊

惠教院